



鹿児島県歴史資料センター黎明館

所蔵品目録(Ⅱ) 文書

Catalogue of Collections (Ⅱ) Documents Section

Kagoshima Prefectural Museum of Culture

REIMEIKAN

1985

鹿児島県歴史資料センター 黎明館

鹿児島県歴史資料センター黎明館 所蔵品目録(Ⅱ) 文書

Catalogue of Collections (Ⅱ) Documents Section
Kagoshima Prefectural Museum of Culture
REIMEIKAN
1985

鹿児島県歴史資料センター 黎明館

はじめに

鹿児島県歴史資料センター黎明館に収蔵・展示する資料の収集については、県民の皆様や県外にお住まいの本県出身の方々などの積極的な御協力により、現在約4万点の資料を収蔵しています。

ここに、あらためて皆様の御協力に対し厚く御礼申し上げます。

当館の資料については、広く県民や関係者の方々に活用されることを願って、本年度は昨年度の「美術・工芸」の部に引き続き、「文書」の部の所蔵品目録第2輯を発行することにしました。

黎明館が所蔵している文書資料は、幕末・明治維新时期に活躍した郷土の人々の文書が中心をなしていますが、中世にさかのぼる文書も多く含まれています。

この目録が、地域文化の向上のための一助になれば幸いです。

昭和60年3月

鹿児島県歴史資料センター 黎明館
館長 新納 教義

凡 例

- 1、この目録は黎明館が昭和59年12月末現在で収蔵している文書資料について収録したもので、寄託品は除いた。
- 2、資料の並べ方は、原則として年代順に行い、一括して所蔵しているものについては家ごとにまとめた。
- 3、資料の記載は、番号、資料名、数量、摘要、年代、大きさ、受入年・方法、台帳番号等とした。
- 4、資料の大きさは、センチメートル単位とし、縦×横を記した。
- 5、史料写真は、資料の中から適宜に抽出し、解読文をつけた。解説文の漢字は多く当用漢字に、変体仮名も平仮名に改めた。
- 6、この所蔵品目録に記載した以外に「歴史」の部等に分類されている文書もあるが、それについては後日発行する予定である。

目 次

はじめに

凡 例

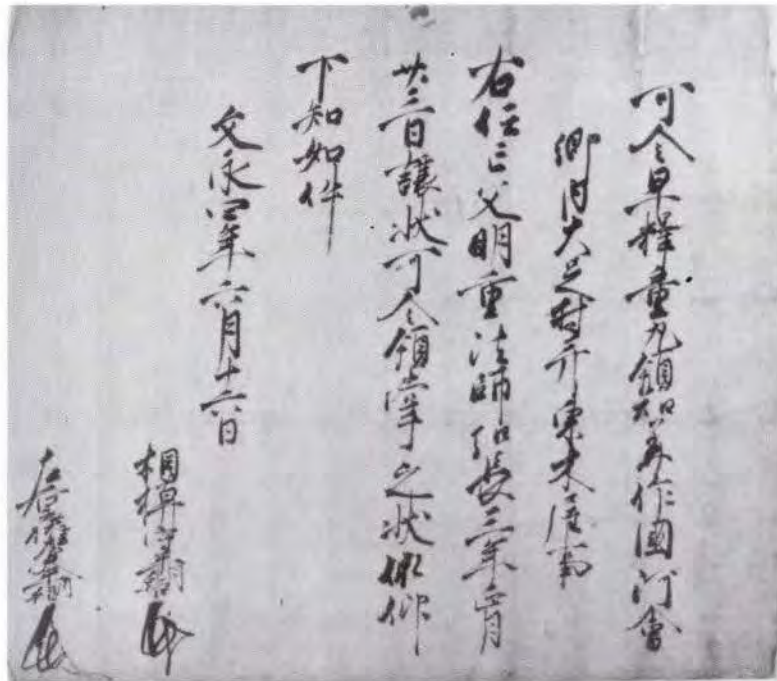
史料写真・解読文 …………… 1

所蔵文書目録 …………… 113

史料写真・解読文

1	関東下知状	36	小枝三郎敦康申状	71	西郷隆盛書簡
2	関東下知状	37	川上久国書状	72	三条実美書簡
3	渋谷重村著到状	38	諏訪兼清書状	73	三条実美書簡
4	渋谷重村著到状	39	町田久倍寄進状	74	岩倉具視書簡
5	関東下知状	40	島津久慶書状	75	岩倉具視書簡
6	渋谷重口寄進状	41	肝付久兼書状	76	木戸孝允書簡
7	六波羅御教書	42	島津久元書状	77	木戸孝允書簡
8	渋谷静重讓状	43	島津忠広書状	78	伊藤博文書簡
9	六波羅御教書	44	坪付	79	伊藤博文書簡
10	渋谷重頼外四名連署紛失証状	45	伊勢貞昌書状	80	小松带刀書簡
11	後醍醐天皇綸旨	46	北郷久加外二名連署状	81	税所篤書簡
12	渋谷典重軍忠状	47	喜入忠統書状	82	嵯峨実愛書簡
13	雑訴決断所牒	48	白尾国長書状	83	真木和泉書簡
14	雑訴決断所牒	49	喜入忠政書状	84	黒田清隆旅行願書
15	渋谷定円外六名連署和与状	50	平田宗張書状	85	勝海舟口上書
16	足利尊氏感状	51	泊如竹書状	86	松方正義書簡
17	渋谷宗真同日一筆讓状	52	島津義久書状	87	井上馨書簡
18	渋谷宗真同日一筆讓状	53	島津義弘感状	88	大山巖書簡
19	渋谷重興軍忠状	54	島津家久書状	89	大隈重信書簡
20	沙弥定円外二名連署讓状	55	島津家久書状	90	奈良原繁書簡
21	渋谷重興軍忠状	56	島津家久書状	91	伊東祐亨書簡
22	鎮西御教書	57	島津家久書状	92	小牧昌業書簡
23	一色直氏奉書	58	島津家久書状	93	鮫島尚信書簡
24	足利直冬軍勢催促状	59	止宿村方江申渡書	94	伊地知貞馨書簡
25	足利直冬感状	60	除証文	95	森有礼書簡
26	渋谷重興軍忠状	61	証文	96	中井弘書簡
27	渋谷重勝避状	62	書物	97	町田久成書簡
28	修理権大夫奉書	63	知行名寄帳	98	瀬脇寿人書簡
29	足利義詮御感御教書	64	御役人辞令	99	山県有朋書簡
30	渋谷重門証状	65	知行高目録	100	西郷従道書簡
31	散位某施行状	66	葛城彦一書状	101	高崎正風書簡
32	貞継書状	67	税所敦子書状	102	寺島宗則書簡
33	沙弥行智讓状	68	大久保利通書簡	103	重野安禪書簡
34	女房奉書	69	大久保利通書簡	104	東郷平八郎書簡
35	近衛信尹書状	70	西郷隆盛書簡	105	私学校欠席届

※文書題の下の()の番号は、所蔵文書目録の番号を示すものである。



(34.0×43.5)

一 關東下知狀(中世一一)

可令早釋童丸領知美作國河會

鄉内大足村并東木屋事、

右、任亡父明重法師弘長三年正月

廿三日讓狀、可令領掌之狀、依仰

下知如件、

文永四年六月十六日

相摸守平朝臣(花押)

左京權大夫平朝臣(花押)

可令早平重村領知相摸國吉田庄
 上深谷郷内田在家義作國河會郷
 龜石土師谷兩村薩摩國入来院内
 副田村已上名字牌
載讓狀 小事
 右任舍兄重繼弘安九年六月八日避
 可令領掌之狀依仰下知如件
 正應元年六月廿七日
 前武藏守平朝臣
 相摸守平朝臣

(35.0X57.0)

二 關東下知狀(中世―三)

可令早平重村領知相摸國吉田庄

上深谷郷内田在家、美作國河會郷□

龜石・土師谷兩村、薩摩國入来院内

副田村已上名字牌
載讓狀 小事

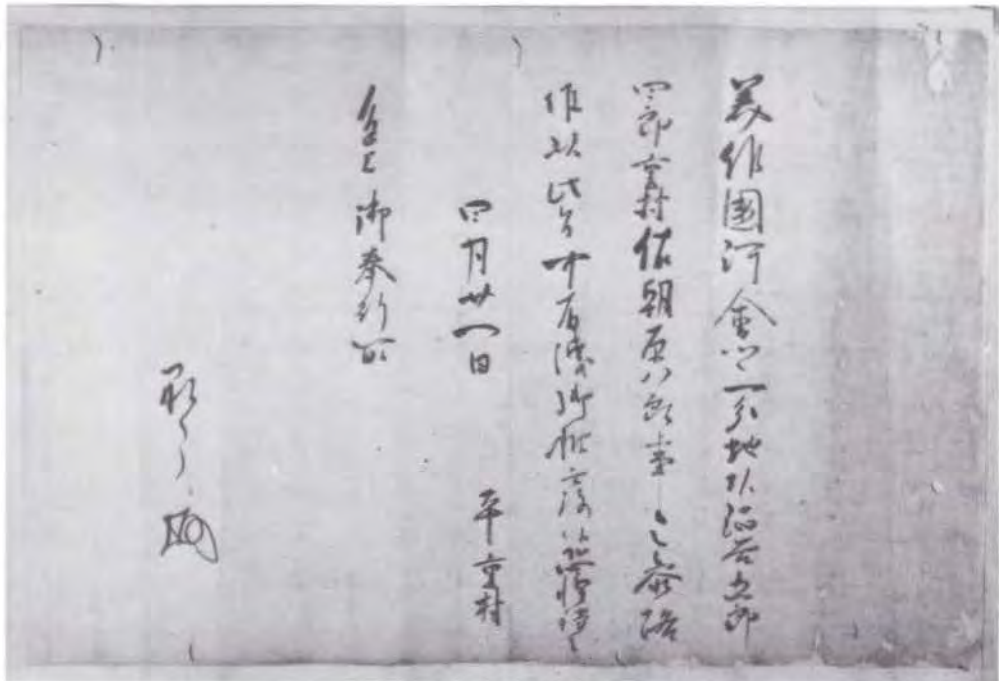
右任舍兄重繼弘安九年六月八日避□

可令領掌之狀、依仰下知如件、

正應元年六月廿七日

前武藏守平朝臣(花押)

相摸守平朝臣(花押)



(35.0×48.0)

三 澁谷重村著到状(中世一八)

美作國河會郷一分地頭澁谷五郎

四郎重村、依朝原八郎事令參路

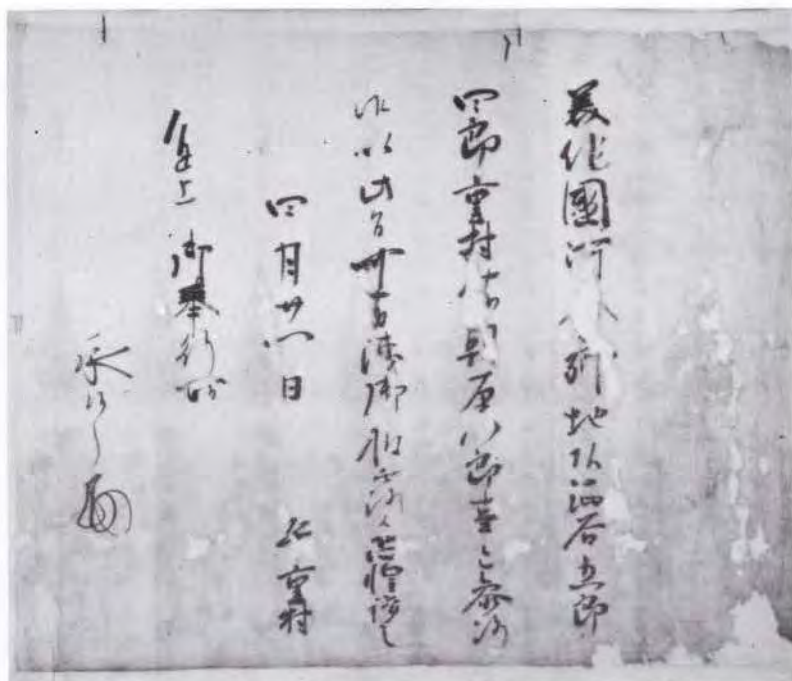
候、以此旨可有洩御披露候、恐惶謹言、

四月廿一日

平重村

進上 御奉行所

承了(花押)



(35.0×40.0)

四 澁谷重村著到狀（中世—九）

美作國河内郡地頭澁谷五郎

四郎重村、依朝原八郎事令參洛

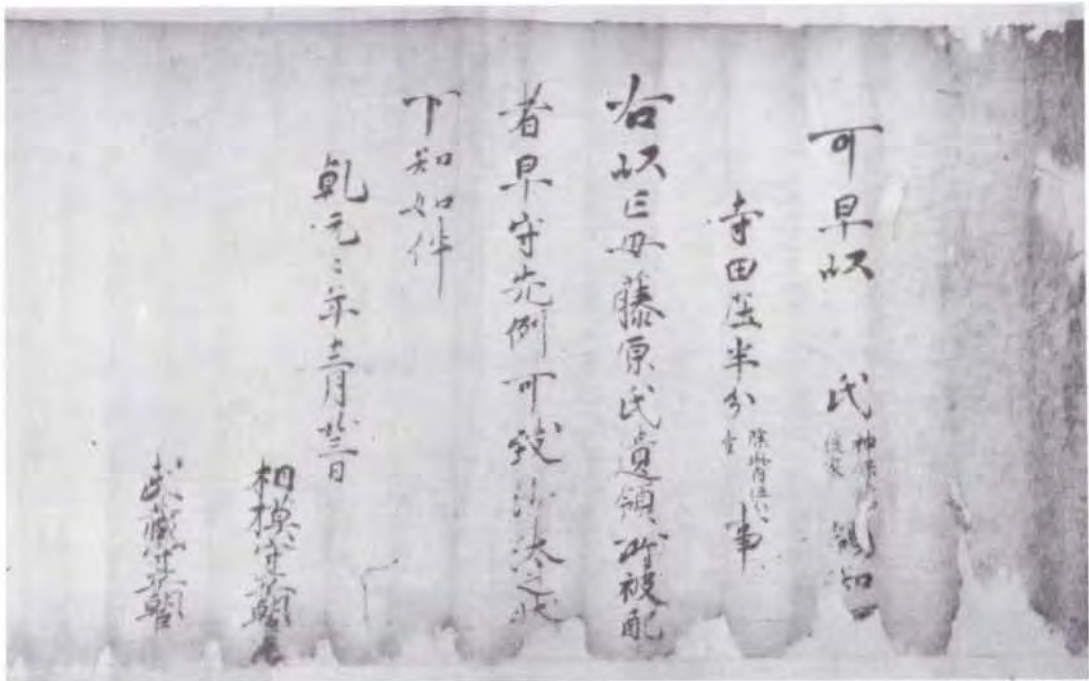
候、以此旨可有洩御披露候、恐惶謹言、

四月廿一日

平重村

進上 御奉行所

承候了（花押）



(35.0×56.0)

五 關東下知狀（中世一一）

可早以 氏 神保 後家 領知

寺田庄半分 除此内伍分事

右以亡母藤原氏遺領、所被配

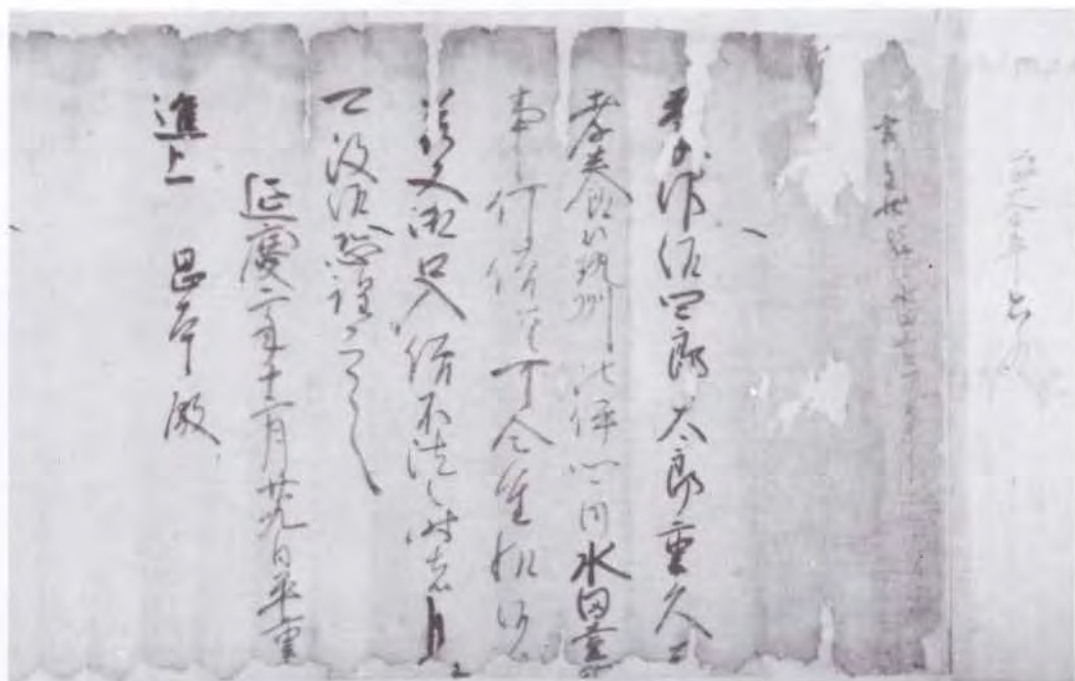
者、早守先例可致沙汰之状、

下知如件、

乾元三年十二月廿三日

相摸守平朝臣（花押）

武藏守平朝臣（花押）



(35.0×54.0)

六 渋谷重□寄進状（中世―一三）

〔縮裏書〕
「寄進状比伊郷水田壹丁事」

蒙仰候四郎太郎重久□

孝養筑州比伊郷内水田壹町

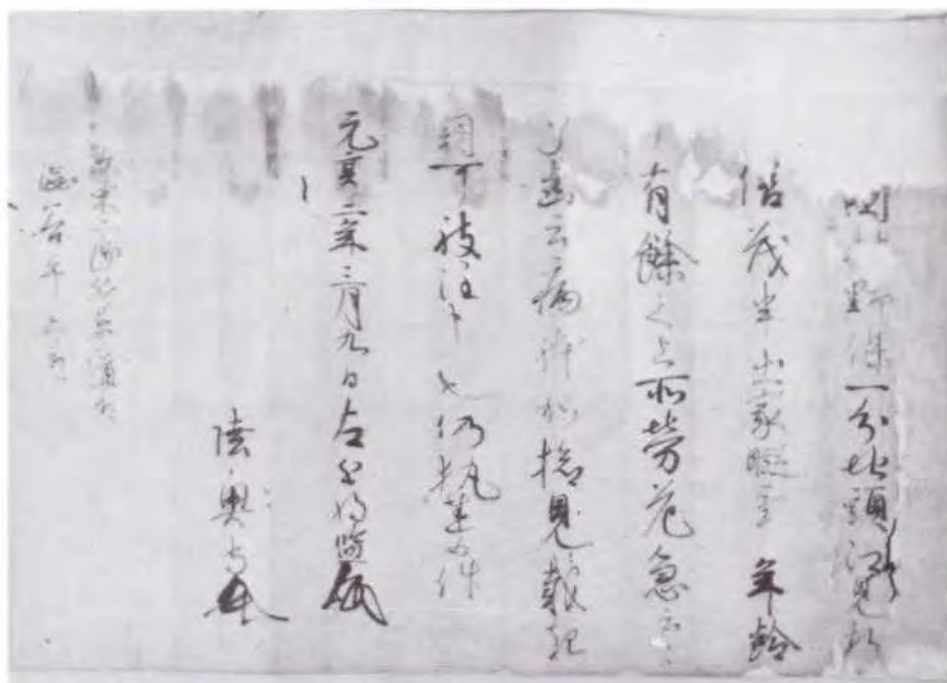
事、何僧仁も可令進給候□

若又御口入僧不法之時者自□

可改候、恐惶謹言、

延慶二年十二月廿九日 平重□

進上 岡本殿



(35.0×46.0)

七 六波羅御教書(中世一五)

□國□野保一分地頭江見新

□信茂申出家暇事、年齢

□有餘之上、所勞危急云々、

□齒、云病躰、加檢見載起

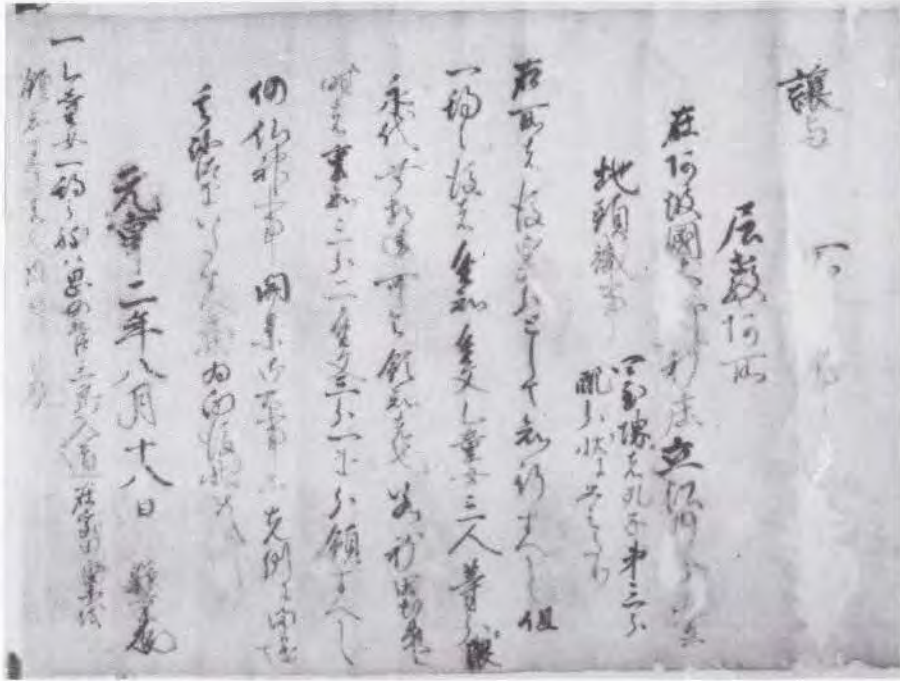
□詞、可被注申也、仍執達如件、

元亨二年三月九日 左近將監(花押)

陸奥守(花押)

安東二郎兵衛入道殿

澁谷平六殿



(35.0×46.0)

八 渋谷静重讓状(中世一六)

讓与 □事

尼教阿所

在阿波國大野新庄立江内□壹

地頭職事四至界者孔子第三分配分状にみえたり

右所者、後家分として知行すへし、但

一期之後者、重知・重文・乙童女三人等分二、限

永代、無相違可令領知者也、若新田出来之

時者、重知三分二、重文三分一を分領すへし、

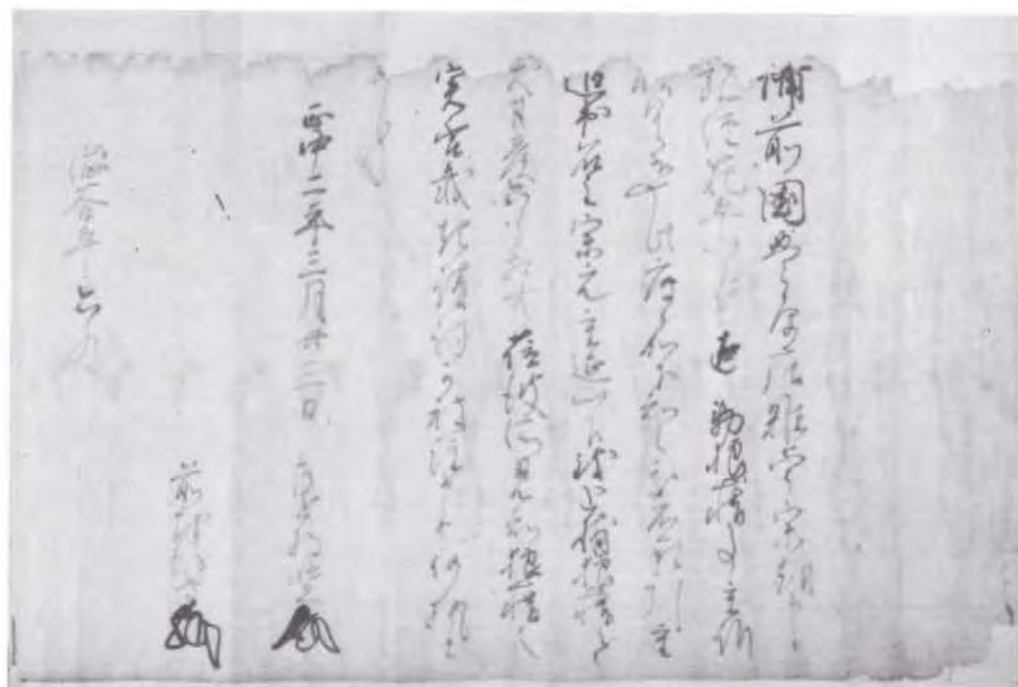
仍仏神事、関東御公事等、先例にまかせて

其沙汰をいたすへき状、為向後状如件、

元亨二年八月十八日 静重(花押)

一乙童女一期之程ハ、岡の菅三郎入道在家田畠等を

領知すへき者也、同月 日(花押)



(35.0×51.0)

九 六波羅御教書(中世—一七)

備前國豊原庄雜掌宗朝申、

親經・範平以下輩違 勅狼藉事、重訴

狀具書如此、度々加下知之處、不承引、重

追出名主宗元・重延以下、致追捕狼藉^{云々}、

犬甘彦六郎相共位彼所、見知狼藉之

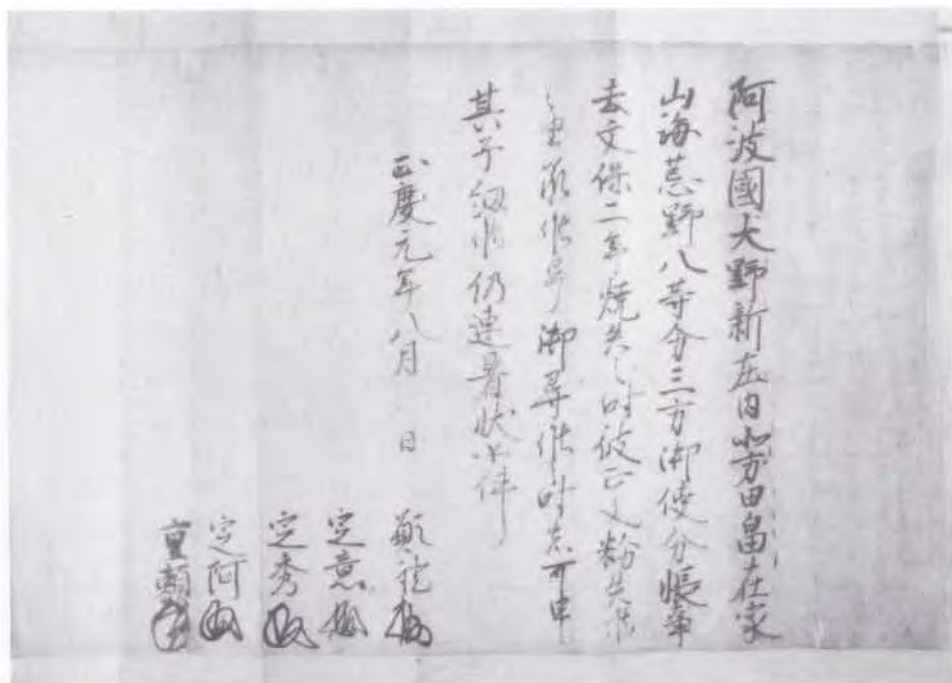
実否、載起請詞可被注申也、仍執達

如件、

正中二年三月廿三日 左近將監(花押)

前越後守(花押)

蓋谷平六殿



(35.0×48.0)

一〇 渋谷重頼外四名連署紛失証狀(中世一八)

阿波國大野新庄内北方田畠在家

山海荒野八等分三方御使分帳事、

去文保二年焼失之時、彼正文粉失候

之由承候早、御尋候之時者、可申

其子細候、仍連署狀如件、

正慶元年八月 日

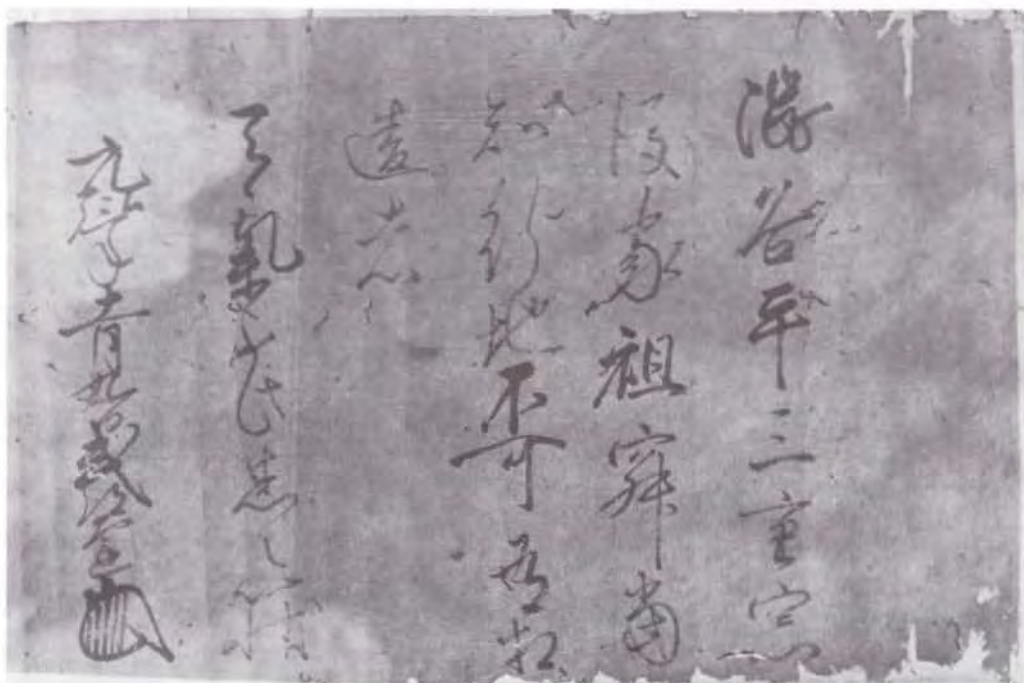
願證(花押)

定意(花押)

定秀(花押)

定阿(花押)

重頼(花押)



(33.0X51.5)

二 後醍醐天皇綸旨(中世一九)

澁谷平三重宗

後家祖舜當

知行地、不可有相

違者、

天氣如此、悉之以狀、

元弘三年十一月九日

式部大丞(花押)

澁谷九郎平典重謹言上
 欲早且依傍例、且任忠功、申賜
 身暇令參洛、令言上子細、今年五月
 廿五日合戰、抽忠勤子細事、
 右合戰之時、於所之戰場、勵隨分忠節之
 条、武藤筑後孫次郎并對馬左近將監
 具被見知早、仍雖可令參訴、
 當所御下向之間、為令言上事由、參洛
 于今所令延引也、早依傍例、任忠功、下賜
 身暇為令上洛、恐言上如件、
 元弘三年八月日

(35.0×41.0)

三 澁谷典重軍忠狀（中世一二二）

澁谷九郎平典重謹言上

欲早且依傍例、且任忠功、申賜

身暇令參洛、令言上子細、今年五月

廿五日合戰、抽忠勤子細事、

右合戰之時、於所之戰場、勵隨分忠節之

条、武藤筑後孫次郎并對馬左近將監

具被見知早、仍雖可令參訴、

當所御下向之間、為令言上事由、參洛

于今所令延引也、早依傍例、任忠功、下賜

身暇為令上洛、恐言上如件、

元弘三年八月日

雜訴決斷所

相摸國吉田上庄上深屋村内北

尾屋敷田畠在家立野美作國

河會庄十町南村内土志谷村田

畠在家薩摩國入来院中村

内副田村田畠在家等事

右當知行不可有相違者以牒

建武元年六月三日少判事中原朝臣(花押)

左中辨藤原朝臣(花押)

(35.0×44.0)

一三 雜訴決斷所牒(中世一二三)

雜訴決斷所□

相摸國吉田上庄上深屋村内北

尾屋敷田畠在家立野、美作國

河會庄十町南村内土志谷村田

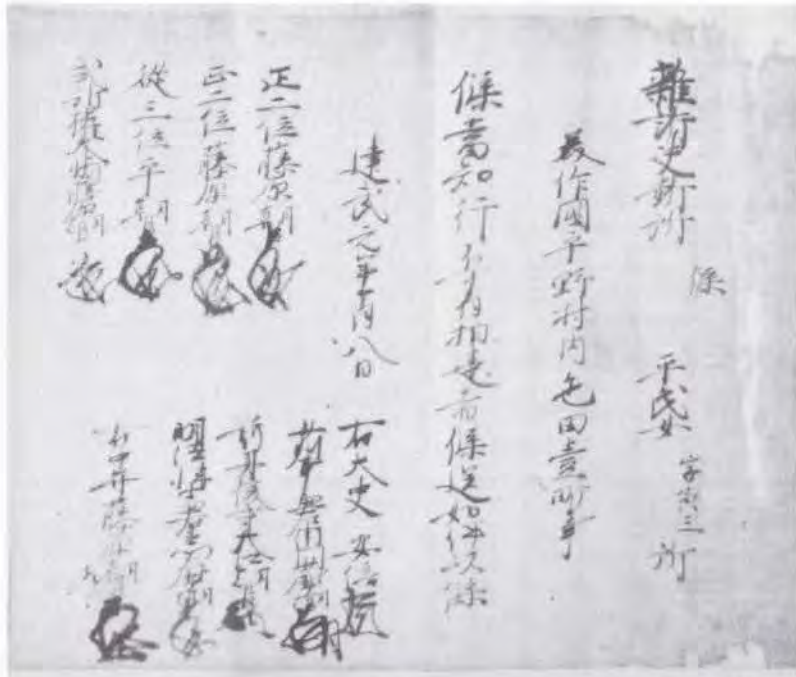
畠在家、薩摩國入来院中村

内副田村田畠在家等事、

右、當知行不可有相違者、以牒、

建武元年六月三日少判事中原朝臣(花押)

左中辨藤原朝臣(花押)



(35.0X34.0)

一四 雜訴決断所牒（中世—二四）

雜訴決断所牒 平氏女 字寅三 所

美作國平野村内色田壹町事

牒、當知行不可有相違者、牒送如件、以牒、

建武元年十月八日 右大史安倍（花押）

少判事兼左衛門少尉中原朝臣（花押）

前丹後守大江朝臣（花押）

明法博士兼右衛門大尉中原朝臣（花押）

右中弁藤原朝臣（花押）

從三位平朝臣（花押）
式部權大輔藤原朝臣（花押）

和与

建武元年十二月十九日、吉田一位御牒、所詮、以和与之儀、至永代、子孫止彼所望上裁、
違乱、付女子方早、此上為後證一族等所令加連署之判形也、
隨而、重躬子息鬼益丸所令拜領令旨御牒等正文、
一通不殘、女子方令渡進早、若猶以後日、云重躬子息
等餘流、於致沙汰者、以一族一同之儀、被經、上裁、罪科可
被行申者也、仍為後代龜鏡、和与之状如件、

吉田一位御牒、所詮、以和与之儀、至永代、子孫止彼所望上裁、
違乱、付女子方早、此上為後證一族等所令加連署之判形也、
隨而、重躬子息鬼益丸所令拜領令旨御牒等正文、
一通不殘、女子方令渡進早、若猶以後日、云重躬子息
等餘流、於致沙汰者、以一族一同之儀、被經、上裁、罪科可
被行申者也、仍為後代龜鏡、和与之状如件、

建武元年十二月十九日

鬼益丸代藤原家綱(花押)
沙弥定重(花押)
平重文(花押)
平重親(花押)
平重躬(花押)
平重房(花押)
由守(花押)

(35.0×65.0)

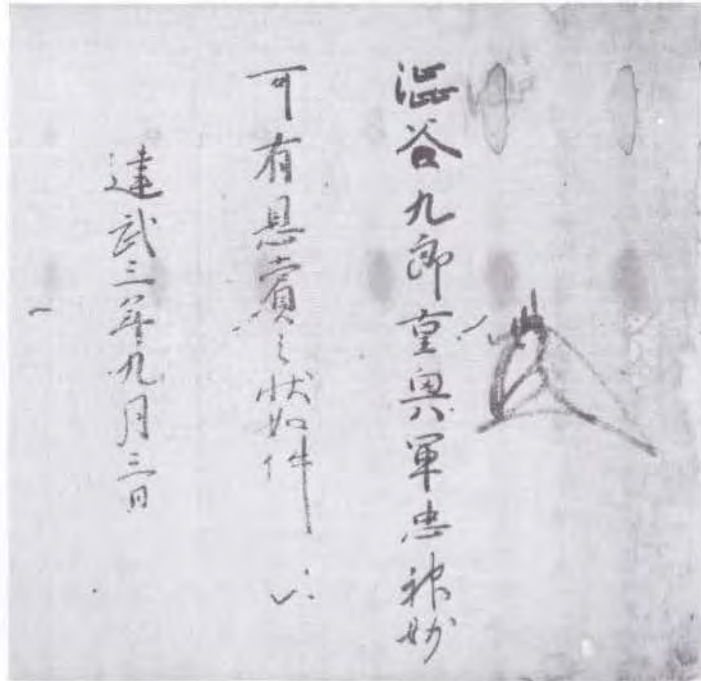
一五 渋谷定円(重基)外六名連署和与状(中世一二五)

和与

渋谷平六重氏^{今者死去}女子等与同重躬子息彦次郎重時^{今者死去}
舍弟鬼益丸相論、重氏跡所領等相摸国吉田庄内上深屋
北尾屋敷田畠立野、美作国河江庄内龜石・土師谷田畠山野、
阿波国大野新庄内八分菴、薩摩国入来院内下副田村田畠
在家山野等事

右所之者、為重氏死去之跡間、鬼益丸雖帶大塔宮令旨^并
吉田一位御牒、所詮、以和与之儀、至永代、子孫止彼所望上裁
違乱、付女子方早、此上為後證一族等所令加連署之判形也、
隨而、重躬子息鬼益丸所令拜領令旨御牒等正文、
一通不殘、女子方令渡進早、若猶以後日、云重躬子息
等餘流、於致沙汰者、以一族一同之儀、被經、上裁、罪科可
被行申者也、仍為後代龜鏡、和与之状如件、
建武元年十二月十九日

鬼益丸代藤原家綱(花押)
沙弥定重(花押)
平重文(花押)
平重親(花押)
平重躬(花押)
平重房(花押)
沙弥定円(花押)



(35.0×31.0)

一六 足利尊氏感状(中世―二七)

(花押)

澁谷九郎重興軍忠神妙、
可有恩賞之状如件、

建武三年九月三日

由りありし所領の事
 女子平氏 法名 宗如
 一所肥前國佐嘉下領内与賀り貳坪壹丁、同十壹坪
 壹丁、石江り廿貳坪壹丁、蘇宜り九坪壹丁、吉田り
 廿陸坪壹丁、庚太田貳坪七反三文、由比り廿四坪壹丁、
 庚太田り拾貳坪八段 并 屋敷壹所 大石 伊賀法橋本給也、
 一所同國三根西郷内ひんかし津ならひにいつミの空閑
 事、抑當所におきてハ吉期知行の後ハ、三分ニわけて、一分をハ
 子息九郎重興に讓給へし、壹分をハ女子王壽にゆつり給へきなり、
 のこる一分と兩所の田地屋敷等ハ、且おきふミをまほり、且代々の
 いましめを存知して、宗如か心にまかせてゆつるへき也矣、
 右のところ、永代ゆつりわたすところ也、おきふミを
 まほりて知行相違あるへからず、仍讓狀如件、
 康永參年二月三日 沙弥(花押)

(35.0×40.0)

一七 渋谷宗真(重棟)同日一筆讓狀(中世一三〇)

ゆつりあたふ所領の事

女子平氏 法名 宗如 ところ

一所さつまのくにたきのこほりの内田地壹丁 あきな ゆくた

又貳段 同所并 屋敷壹所 二郎かその也矣、

一所肥前國佐嘉下領内与賀り貳坪壹丁、同十壹坪

壹丁、石江り廿貳坪壹丁、蘇宜り九坪壹丁、吉田り

廿陸坪壹丁、庚太田貳坪七反三文、由比り廿四坪壹丁、

庚太田り拾貳坪八段 并 屋敷壹所 大石 伊賀法橋本給也、

一所同國三根西郷内ひんかし津ならひにいつミの空閑

事、抑當所におきてハ吉期知行の後ハ、三分ニわけて、一分をハ

子息九郎重興に讓給へし、壹分をハ女子王壽にゆつり給へきなり、

のこる一分と兩所の田地屋敷等ハ、且おきふミをまほり、且代々の

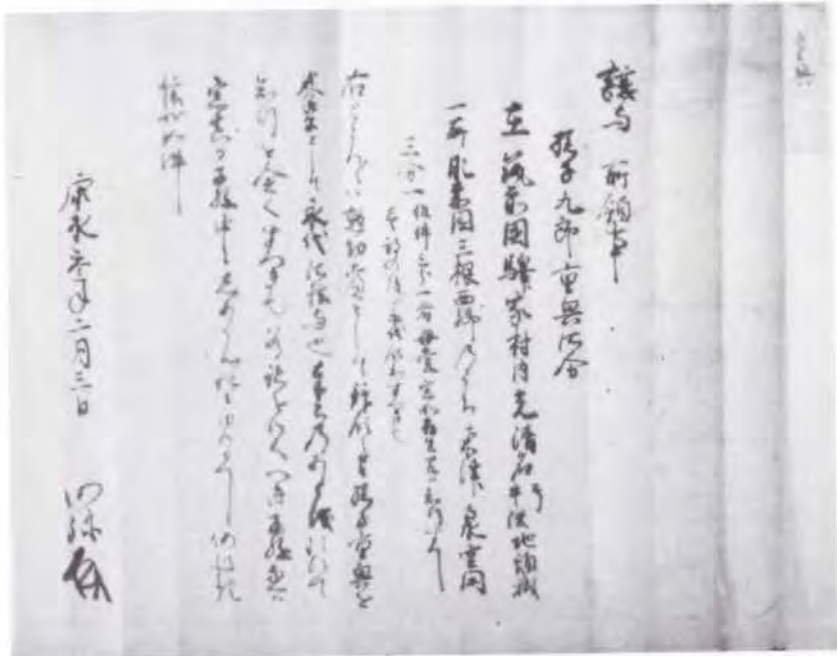
いましめを存知して、宗如か心にまかせてゆつるへき也矣、

右のところ、永代ゆつりわたすところ也、おきふミを

まほりて知行相違あるへからず、仍讓狀如件、

康永參年二月三日

沙弥(花押)



(35.0×44.0)

一八 渋谷宗真(重棟)同日一筆譲状(中世—三二)

〔端裏書〕
「重興」

譲与 所領事

孫子九郎重興所分

在筑前國驛家村内光清名^牛限、地頭職

一所、肥前國三根西郷のうち東津・泉空閑

三分一但件三分一者、母堂宗如存生間ハ知行すへし、
翌期の後ハ永代領知すへき也

右ところノハ、勲功賞として拝領之間、孫子重興を

養子として、永代所譲与也、奉公のあとをおひて、

知行を全くすへき也、若跡をつくへき子孫なくハ

宗真か子孫中に志あらん仁にゆつるへし、仍後證

譲状如件、

康永参年二月三日

沙弥(花押)



(32.3×41.5)

一九 澁谷重興軍忠狀（中世—三二）

澁谷九郎重興申 事

去八月廿七日、同廿八日、於薩摩國

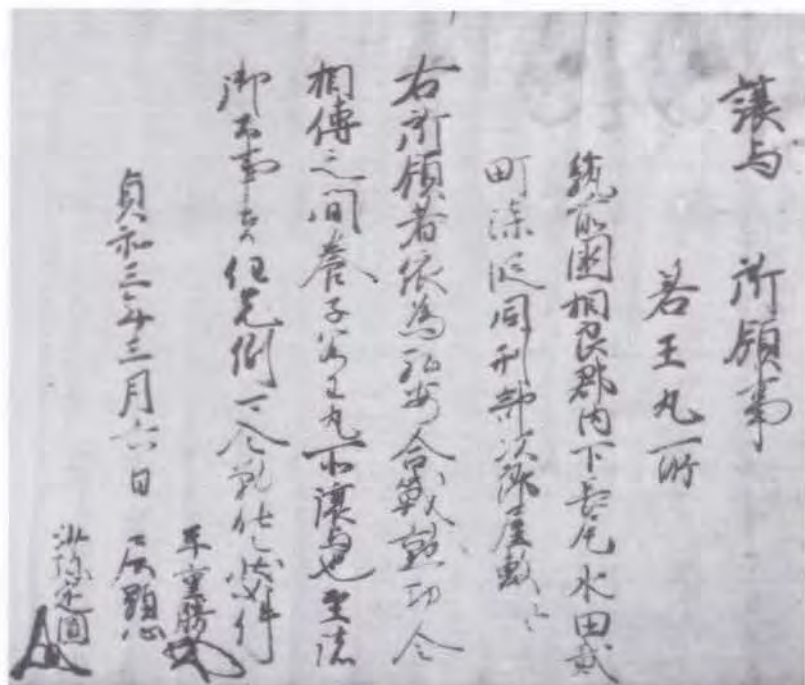
鹿兒嶋谷峯城、致御目前

合戰忠節上者、預御一見、

為備後訴龜鏡、粗言上如件、

康永四年九月三日

承了（花押）



(30.5×42.0)

二〇 沙弥定円(重基)外二名連署讓状(中世—三三)

讓与 所領事

若王丸所

筑前國相良郡内下長尾水田貳

町柒段同刑部次郎屋敷云々

右所領者、依為弘安合戰勲功、令

相傳之間、養子若王丸所讓与也、至諸

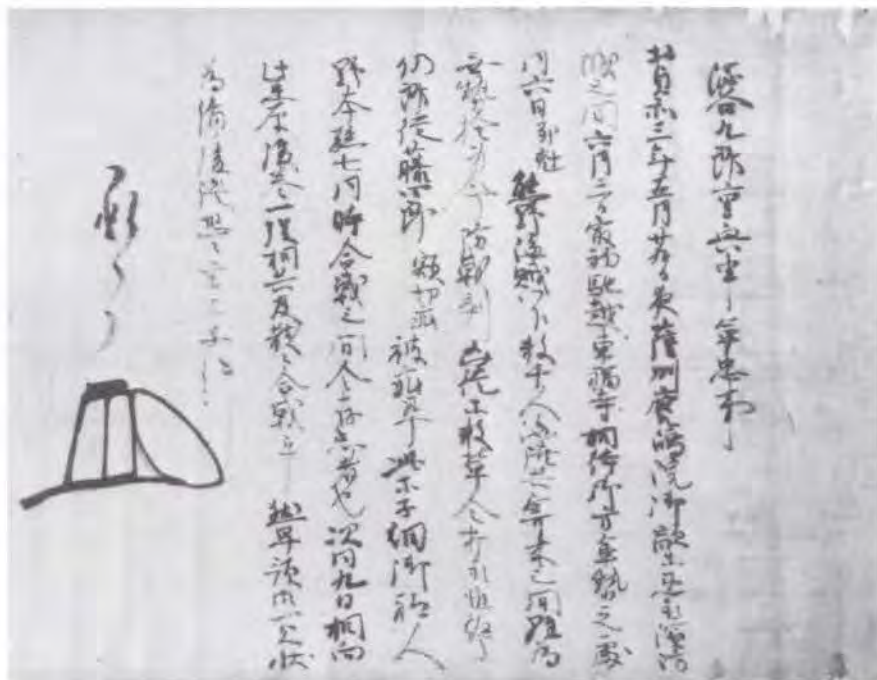
御公事者、任先例、可令勤仕之状如件、

平重勝(花押)

貞和三年三月六日

尼顯心

沙弥定円(花押)



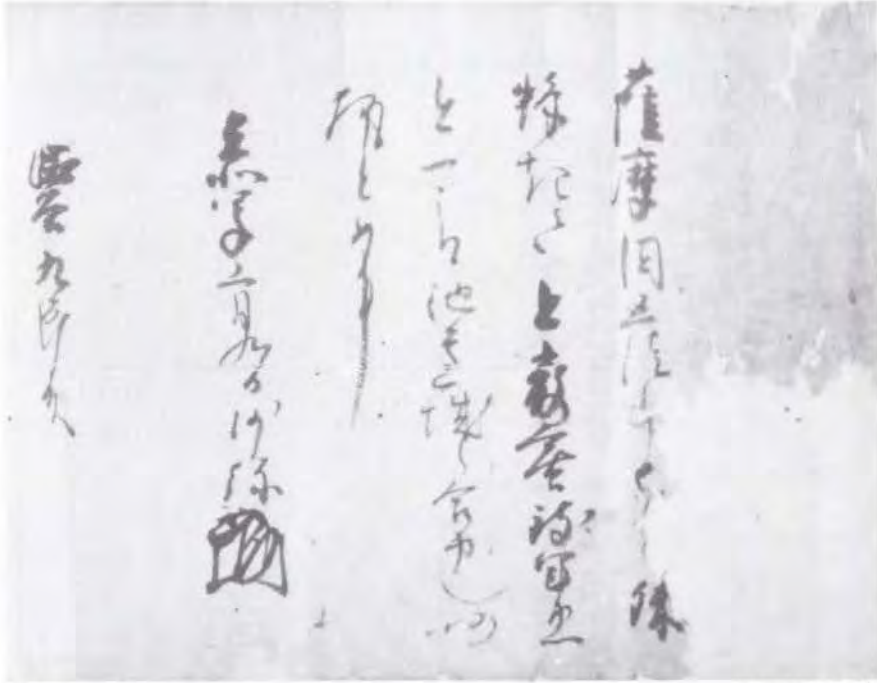
(29.5×49.5)

二 澁谷重興軍忠狀（中世—三四）

澁谷九郎重興申軍忠事

於貞和三年五月廿九日夜、薩州鹿嶋院御敵等、忍取濱崎城之間、六月三日最初馳越東福寺、相待御方軍勢之處、同六日卯剋、熊野海賊以下數千人、海陸共寄來之間、雖爲無勢、捨身命防戰、剩凶徒等數輩、令打取追返了、仍郎徒藤四郎額切疵、被疵畢、此等子細、御祇人野本孫七同時合戰之間、令存知者也、次同九日相向紫原後卷、一族相共及散々合戰早、然早預御一見狀、爲備後證、恐々言上如件、

承了（花押）



(35.0×38.0)

三 鎮西御教書(中世—三五)

薩摩國凶徒 殊

蜂起云々、且嚴蜜致軍忠

且可有池邊城之合力也、仍

執達如件、

貞和四年二月九日 沙弥(花押)

澁谷九郎殿



(35.0×40.0)

三 一色直氏奉書（中世—三六）

薩摩國凶徒事、可寄

来池邊城之由、依有其聞、

可合力之旨、先度被仰

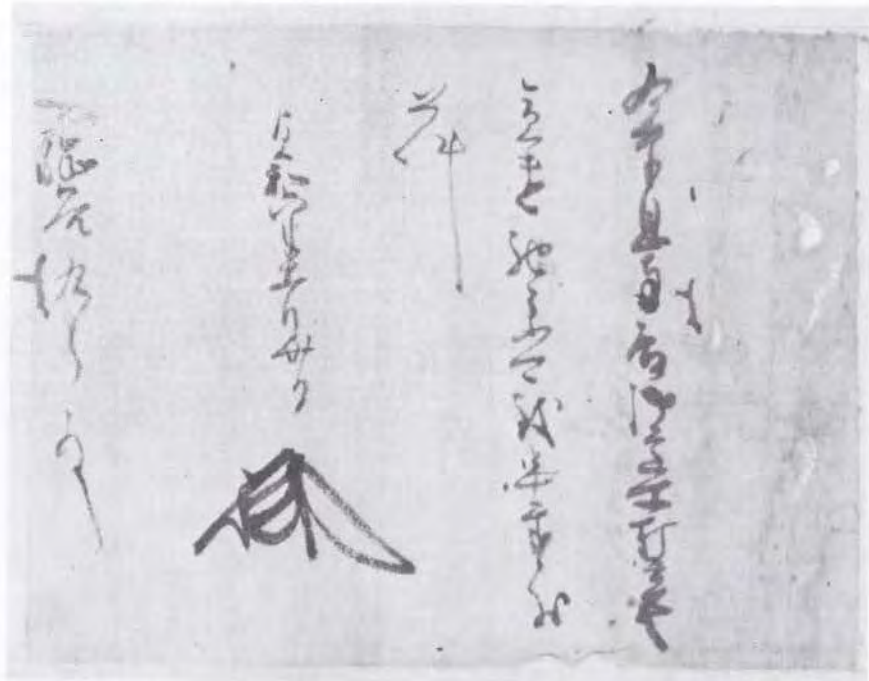
處不事行云々、何様事哉、

急速馳向、可被對治、仍

執達如件、

貞和四年八月十七日 宮内少輔（花押）

澁谷九郎殿



(16.0×20.5)

三四 足利直冬軍勢催促状(中世―三七)

為奉息兩殿御意、所打立也、
急速馳參、可致忠節之状
如件、

貞和六年十一月卅日(花押)

澁谷九郎殿



(28.5×41.5)

二五 足利直冬感状(中世—三九)

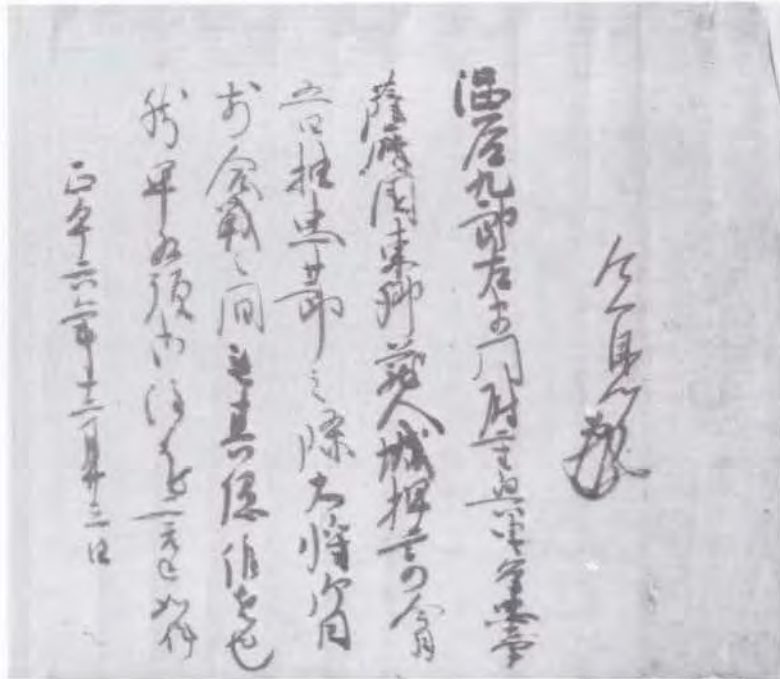
於國致忠節之上、

馳參之条、尤神妙也、

弥可抽戰功之状如件、

貞和七年五月廿五日(花押)

澁谷九郎殿

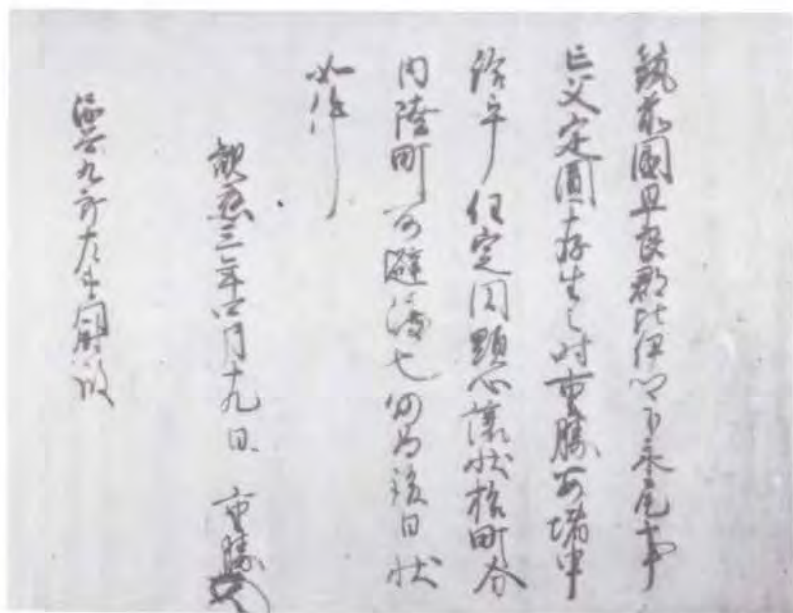


(28.0×30.5)

二六 澁谷重興軍忠状(中世—四一)

令一見了(花押)

澁谷九郎左衛門尉重興申軍忠事
 薩摩國東鄉藏人城押寄、今月
 五日抽忠節之條、大將御目
 前合戦之間、無其隱候者也、
 然早爲預御注進、言上如件、
 正平六年十二月廿三日



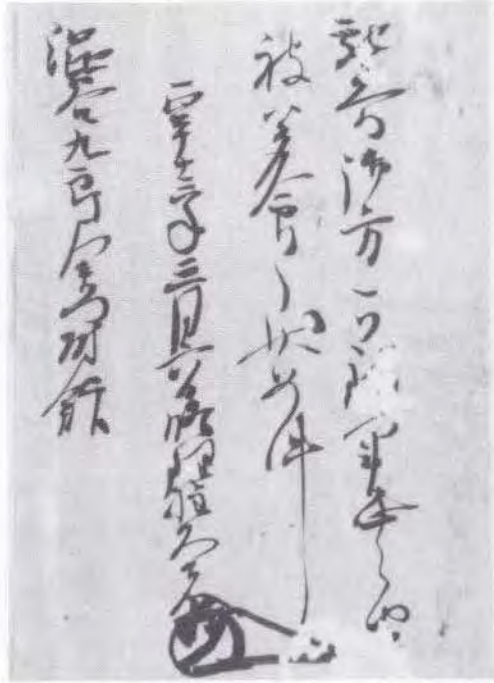
(35.0×36.0)

二七 澁谷重勝避狀（中世—四二）

筑前國早良郡比伊鄉下永尾事、
 亡父定圓存生之時、重勝安堵申
 給早、任定圓・顯心謙狀、拾町分
 内陸町所避渡也、仍為後日狀
 如件、

重勝（花押）

觀應三年四月十九日
 澁谷九郎左衛門尉殿



(11.0×7.0)

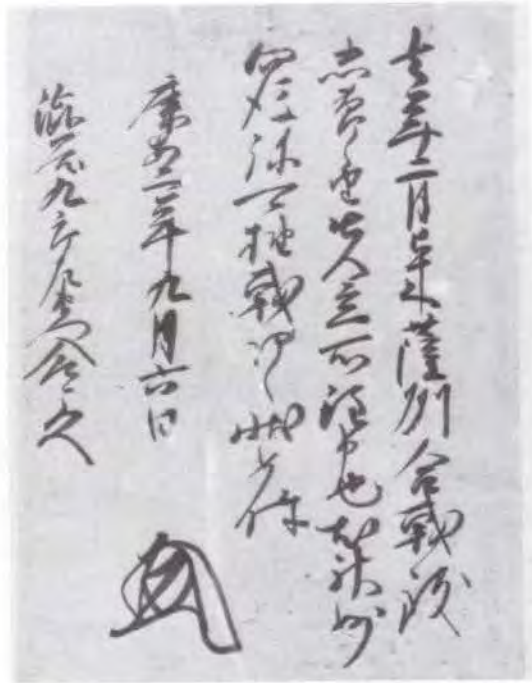
二六 修理權大夫奉書（中世―四三）

馳參御方、可致軍忠之由、

被問食之狀如件、

正平十三年三月六日 修理權大夫（花押）

澁谷九郎左衛門尉館



(35.0×12.0)

二九 足利義詮御感御教書(中世―四四)

去年二月已來、薩州合戰致

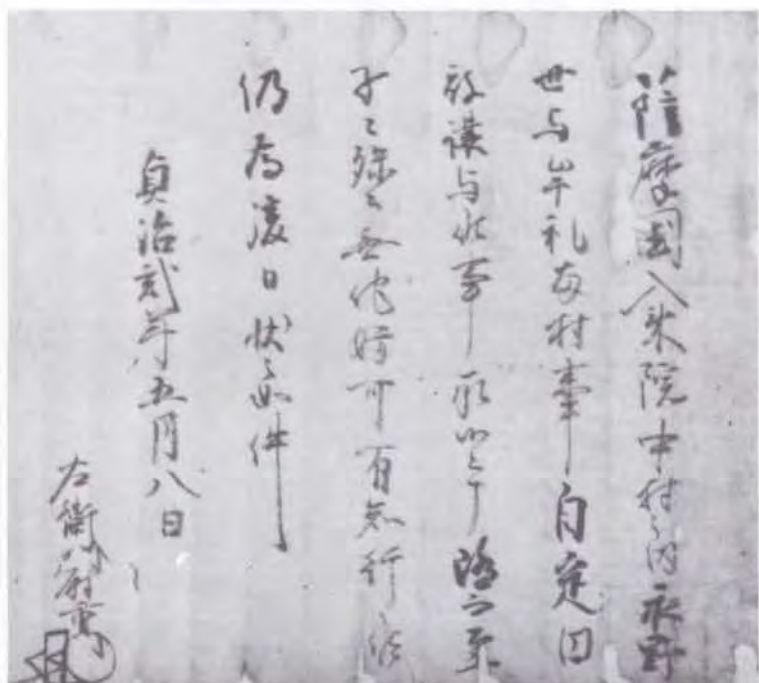
忠節之由、先立所注申也、尤神妙、

向後亦可抽戰功之狀如件、

康安二年九月六日

(花押)

澁谷九郎左衛門入道殿



(35.0×34.0)

三〇 渋谷重門証状（中世—四五）

薩摩國入米院中村之内永野・

世与牟礼兩村事、自定円

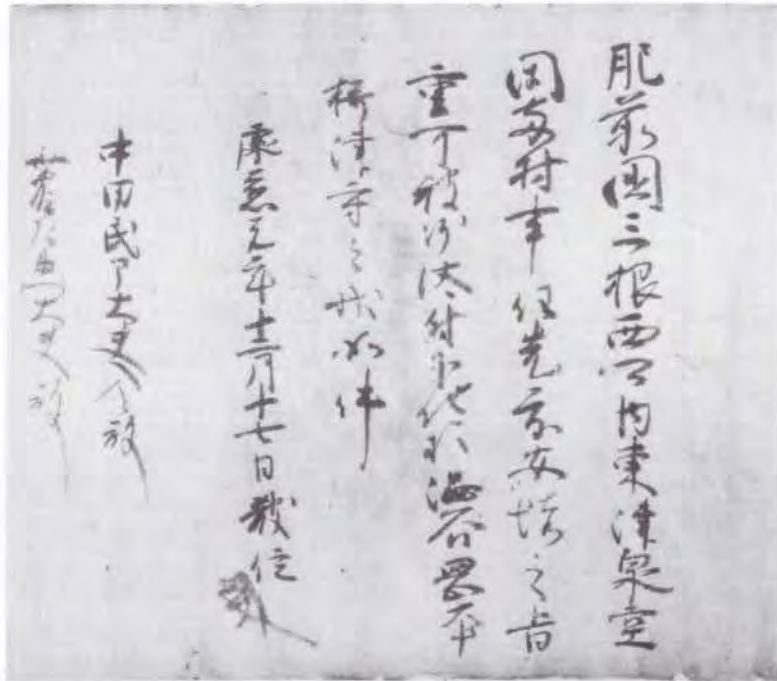
被讓与候事承候早、隨而至

子之孫々無他妨可有知行候、

仍為後日状之如件、

貞治貳年五月八日

左衛門尉重門（花押）



(32.3×40.0)

三 散位某施行狀（中世—四六）

肥前國三根西郷内東津・泉空

閑兩村事、任先度安堵之旨、

重可被沙汰、付下地於澁谷岡本

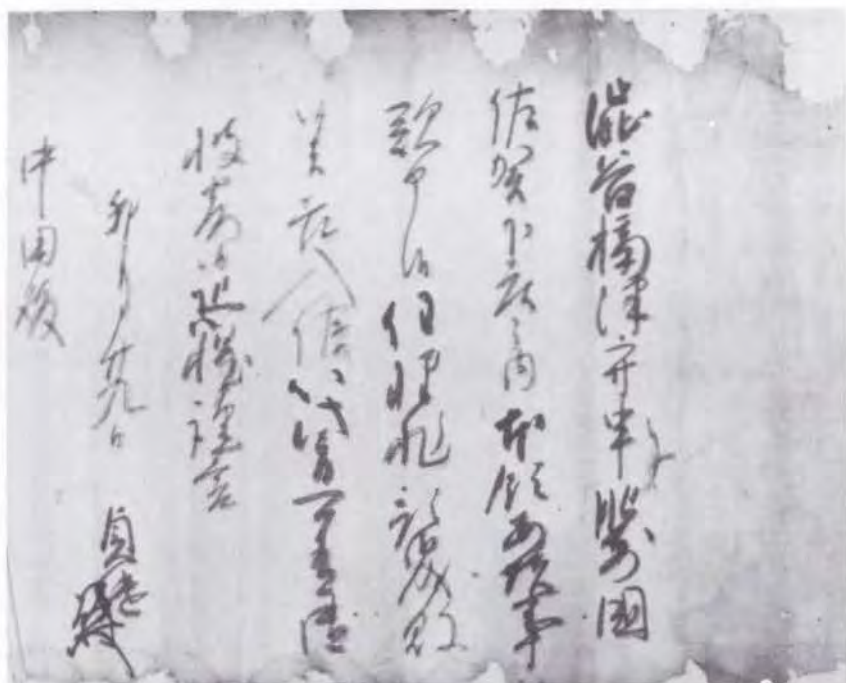
攝津守之狀如件、

康應元年十二月十七日

散位（花押）

中田民部大夫入道殿

齋藤左衛門大夫殿



(31.0X41.0)

三 貞繼書状(中世一四七)

澁谷攝津守申、肥前國

佐賀下庄之内本領安堵事、

歎申候、任理非預御成敗

候者、畏入候、以此旨可有御

披露候、恐惶謹言、

卯月廿九日

中田殿

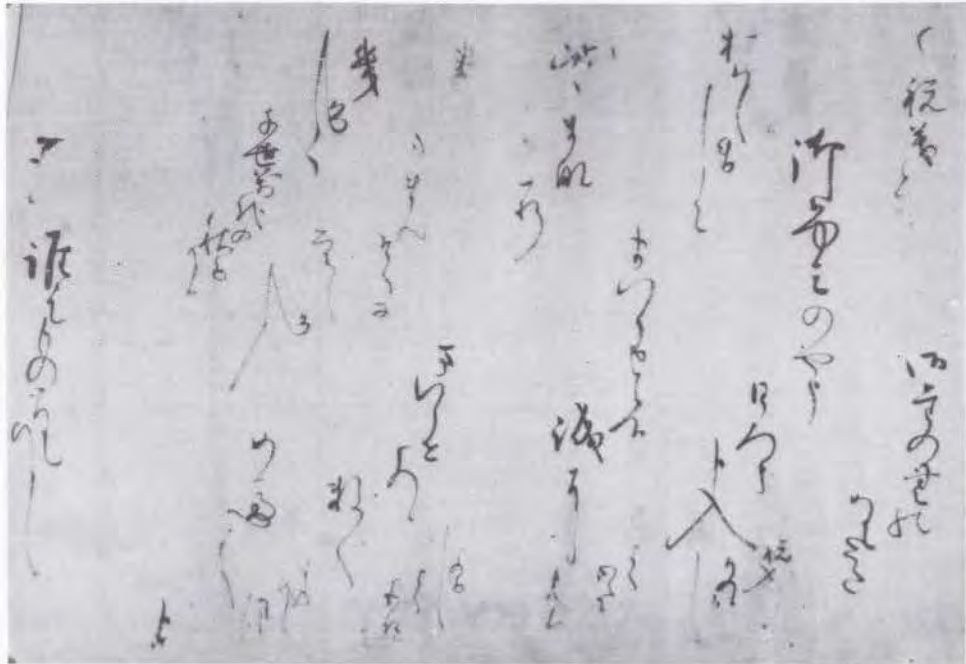
貞繼(花押)

譲与 一 所從等
 力寿丸所
 一人 弥六男 水引三郎妻夫同一類
 宮太郎男妻夫同一類 一人 安房男
 一人 三郎童 一人 初次郎童
 濱三郎次郎男一類
 右奴原者重代相傳下人等也、而任彼讓狀之旨、
 迄于子々孫々可令服仕之狀如件、
 嘉曆二年二月四日 沙弥行智(花押)

(30.0×32.7)

三三 沙弥行智讓狀(中世一五五)

譲与 所從等
 力寿丸所
 一人 弥六男 水引三郎妻夫同一類
 宮太郎男妻夫同一類 一人 安房男
 一人 三郎童 一人 初次郎童
 濱三郎次郎男一類
 右奴原者重代相傳下人等也、而任彼讓狀之旨、
 迄于子々孫々可令服仕之狀如件、
 嘉曆二年二月四日 沙弥行智(花押)



(36.0X52.5)

三四 女房奉書(曾木文書一)

御祝義

御たのむの

と

めでたさ

御ふみのやう

おハシ

ひろう 祝入

して

申入

られ候

まいらせ候

よく

誠に

心えて

此ニまな

申せとて候

一折

このよ

御まん

まいらせ

し

そくに

られ

よく

幾

覚し

数く

心得

久め

候て

しくし

申入

千世萬代の

めて

へく候

秋迄

たく

めでたく

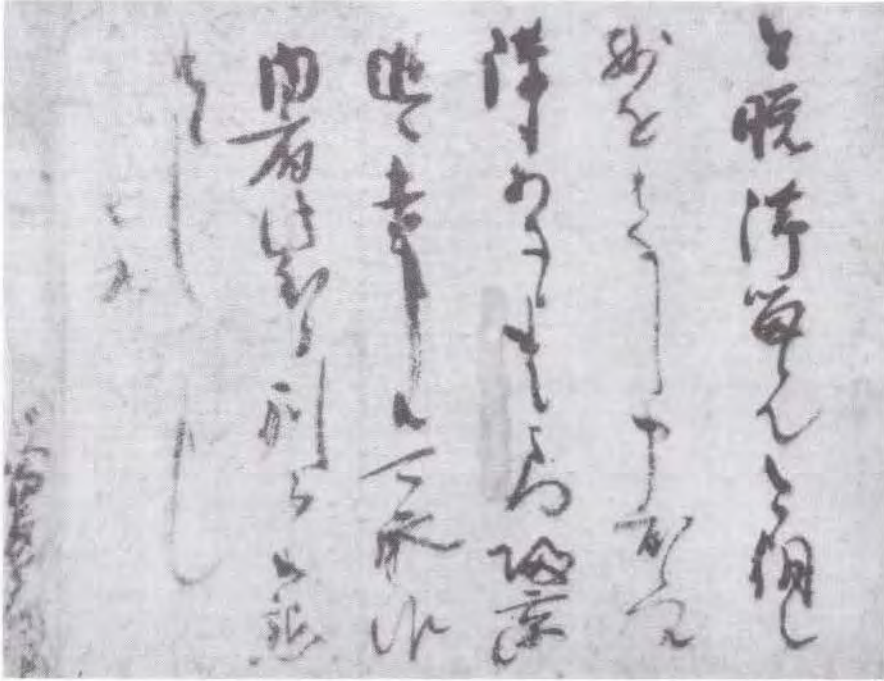
もと

かしく

る

誰ニてももの御局へ

まいらせ候



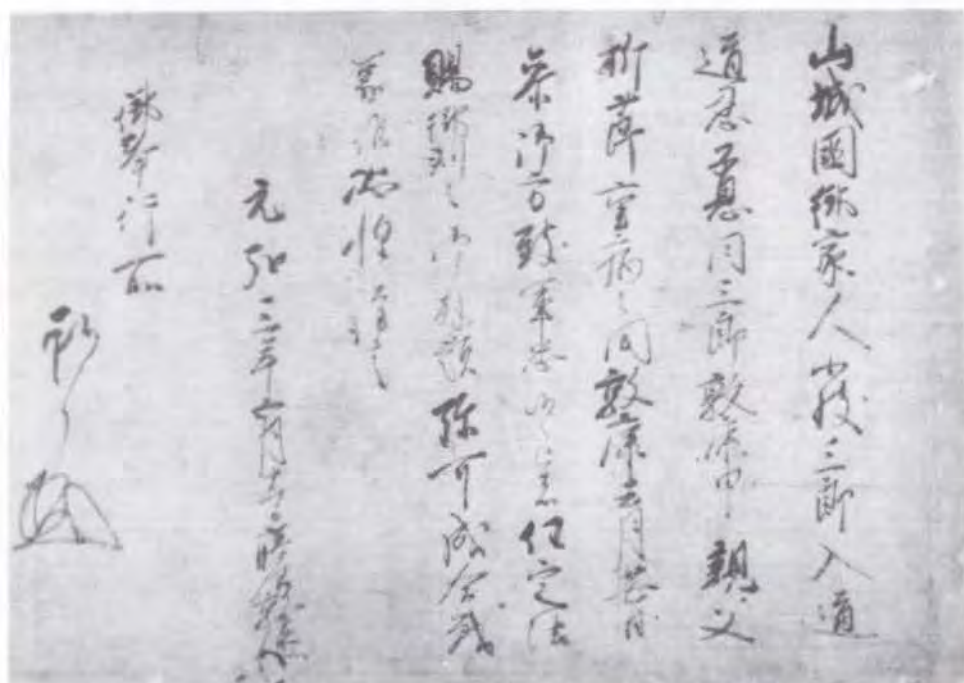
(31.0×40.5)

三五 近衛信尹書状(曾木文書一二)

今晩滞留候て、今朝之
 残をはなし申度候へ共、
 障もあき候まゝ、まつ歸京候、
 追々吉事共可承候、
 内府此分者 別而 御懇
 由候、く、かしく、

七九

岡留左近



(31.3×45.6)

三 小枝三郎敦康申状(曾木文書一七)

山城國御家人小枝三郎入道

道忍子息同三郎敦康申、親父

折節重病之間、敦康去月廿七日

參御方致軍忠候之上者、任定法

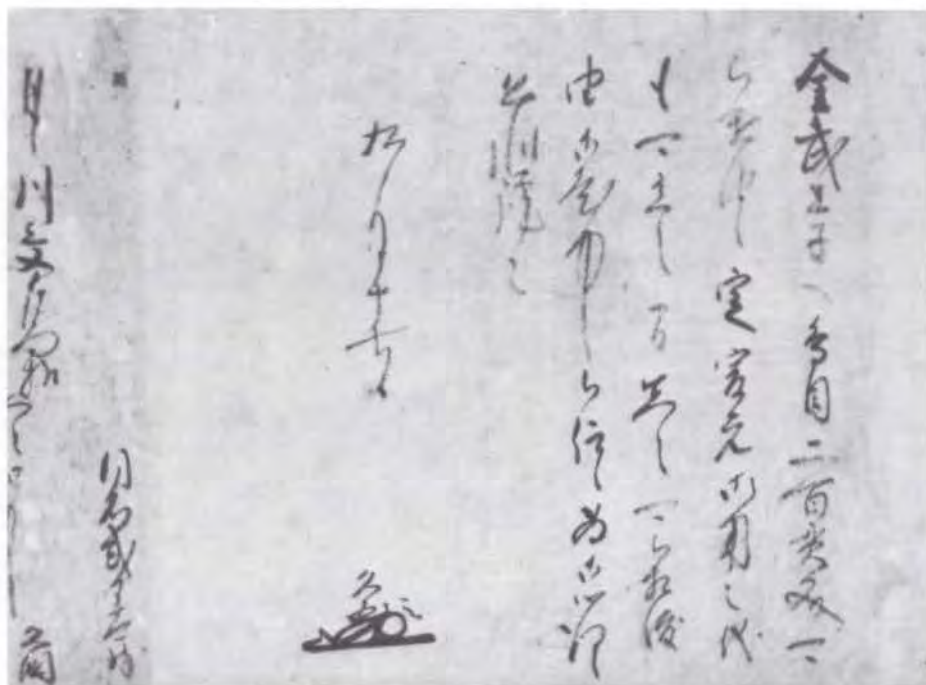
賜御判之御外題、弥可成合戰

義候、恐惶謹言、

元弘三年五月十二日藤原敦康(花押)

御奉行所

承了(花押)



(28.7×41.0)

三七 川上久国書状(曾木文書一―二二)

金武王子へ鳥目二百貫文可
被遣由候、定爰元御用之儀
も可有之間、先々可被相渡
由、御老中被仰候、為御心得候、
恐惶謹言、

九月十七日

久国(花押)

同名式部太輔

久国

謹上 川上又左衛門様

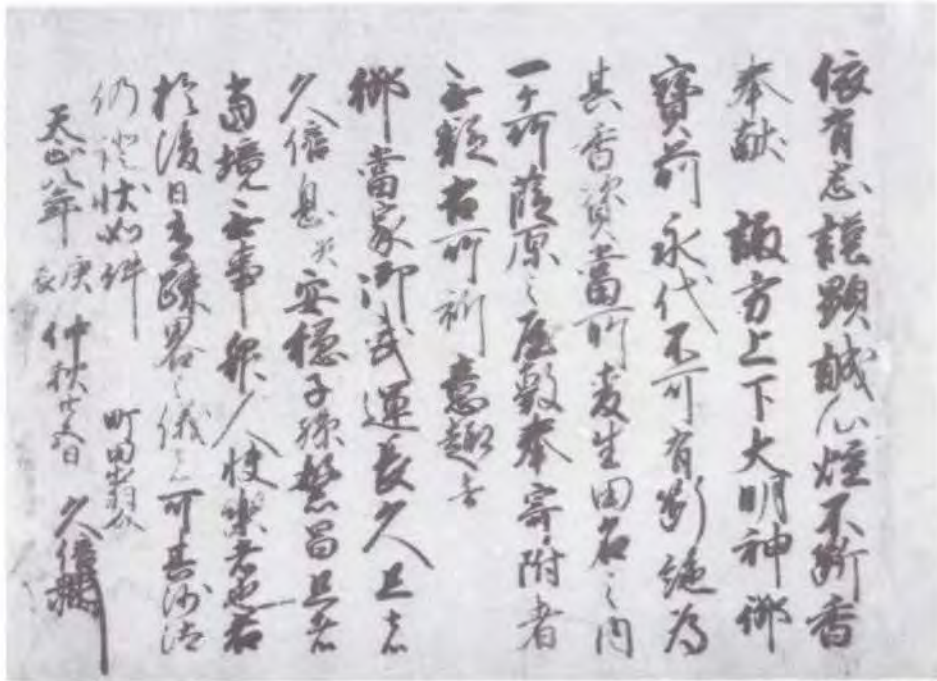
人々御中



(30.0×45.0)

三八 諏訪兼清書状(曾木文書一三三)

猶々彼者事、菩提之
 為ニて候間、出家ニ召成度候、
 何とそ被入御精候而 出家之
 道ニ心さし申候様ニ御
 指南頼申候、
 一書令啓入候、仍其元
 御無事之由、目出度候、
 我等夫婦ニも無事ニ
 御座候、其後状ニても
 不申、御無音ニ候、
 然者 我等被官
 毛利隼人弟、我等
 悴者ニ罷成候、若輩
 ニて候間、当分者 貴僧
 弟子ニ召置度候間、
 側ニ被召置候て
 手習学文御指南
 頼申候、細々ハ
 隼人召列參候而
 様子可申入候、其身
 学文ニも心掛候て
 以来出家ニも罷成候て
 左様ニも可申付候、
 万々指南頼存候、
 恐惶謹言、
 九月十四日 諏方全右衛門
 兼清(花押)



(28.5×40.5)

三九 町田久倍寄進狀(曾木文書一四)

依有志、謹顯誠心、炷不斷香

奉獻 諏方上下大明神御

寶前、永代不可有斷絶、為

其香資、當所麥生田名之内

一ヶ所葭原之屋敷奉寄附者

無疑、右所祈意趣者

御當家御武運長久、且者

久倍息^災 安穩、子孫繁昌、且者

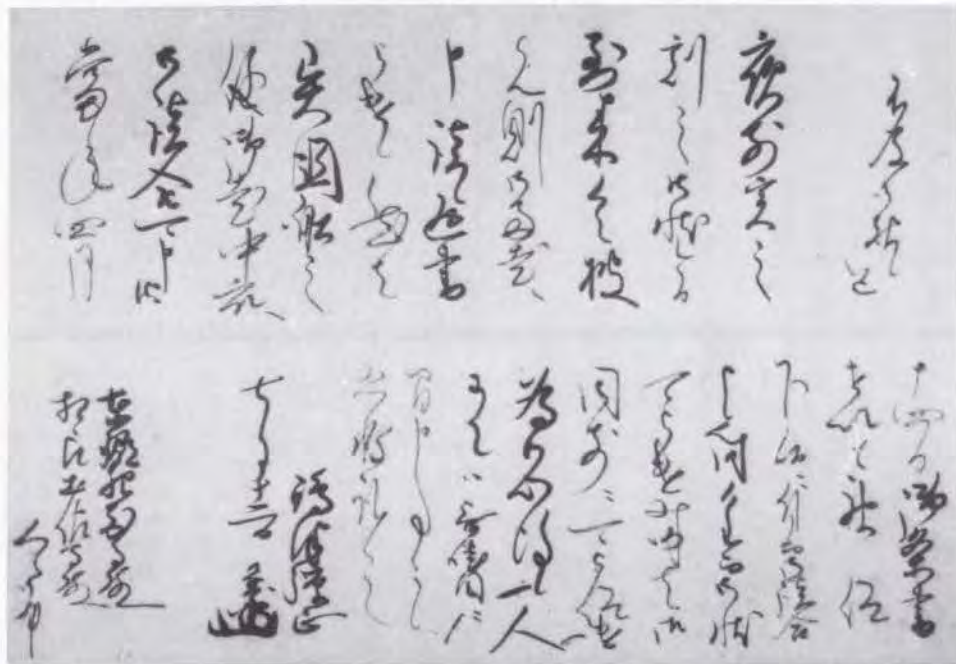
當境無事、衆人快樂者也、若

於後日有疎略之儀者、可其沙汰、

仍證狀如件。

町田出羽介

天正八年 庚辰 仲秋廿五日 久倍(花押)



(30.8×44.9)

四〇 島津久慶書状（曾木文書一六）

不及御報候、

以上、

夜前亥之

刻之御状、今日

到来、令披

見、則御両老へ

申談候、返書

被遣候、然者

異国船之

儀、御老中衆へ

御談合可申由、

當年四月

十四日御条書

を以も被仰

下候ニ付而、御談合

申候間、重而御状

可被遣時者、御

同前ニ可被仰遣候、

為御心得候、一人

にてハ無嗜ニ候

間申事ニ候、

恐惶謹言、

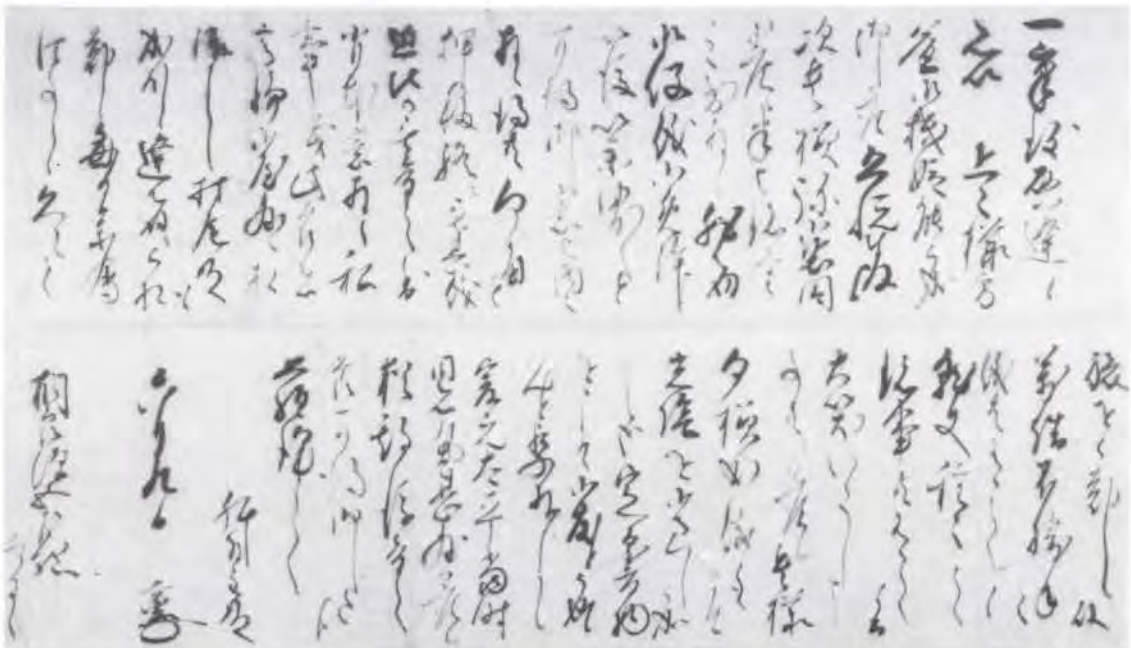
嶋津彈正

七月十二日 久慶（花押）

東郷肥前守殿

相良土佐守殿

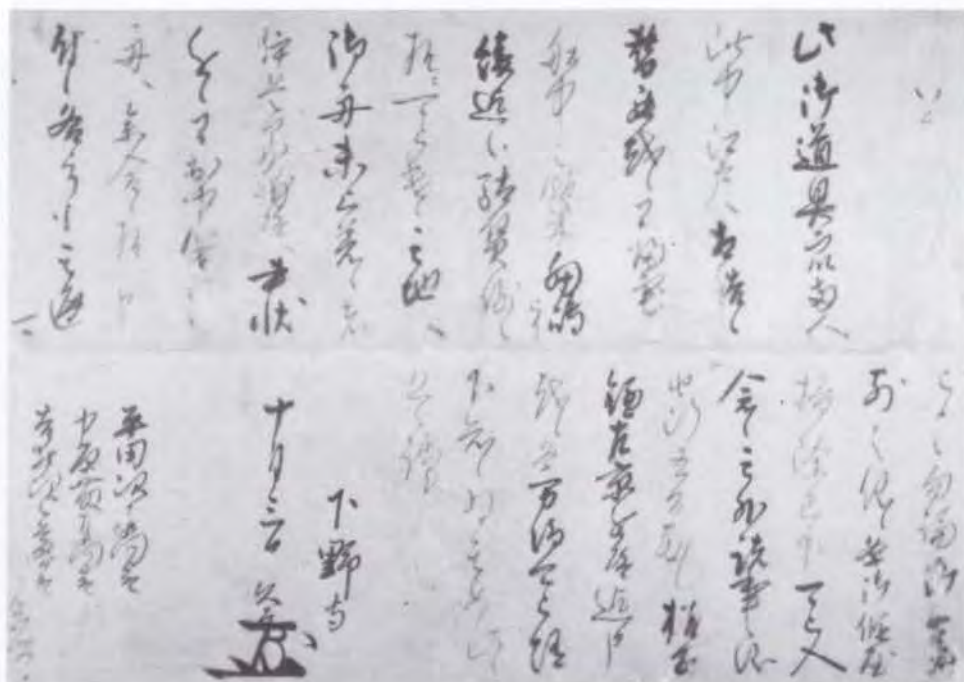
人々御中



(30.8×54.2)

四一 肝付久兼書状（曾木文書一七）

一筆致啓達候、
 旅を被勤候故、
 先以 上々様方
 萬端不勝手之
 益御機嫌能被成
 儀共有之候、
 御座、恐悦奉存候、
 就夫種々之
 次貴様弥御堅固
 弥事共有之候 而、
 御座候半与、珍重
 大笑いたし申
 之至存候、然者
 事共ニ御座候、貴様
 御役儀御免許
 何様成儀ともにて
 以後、以参ゆるくと
 光陰を御過し被成
 可得御意与 内々
 申候哉、定而書物
 存候得共、何角と
 をこそ御友と被成候
 押移、終ニ無其儀、
 八んと察存申候、
 近比御無音之至、
 爰元太平、当時
 暑氣甚敷御座候、
 背本意存候、私
 猶期後音之
 事茂 此節者
 節、可得御意候、
 高輪御屋敷へ相
 恐惶謹言、
 詰申候、村尾殿も
 六月九日 肝付主殿
 成ほど達者ニ被相
 久兼（花押）
 勤候、毎日参會
 相良源五左衛門様
 仕事ニ候、久々にて
 人々御中



(32.8x46.3)

四三 島津久元書状(曾木文書一二〇)

以上

此御道具衆兩人、
 此中江戸へ相詰候、
 替罷越候間帰宅、
 船中之飯米、細嶋より
 綾迄之駄賃、例之
 様ニ可被遣候、其地へ
 御舟未上着候者、
 伊兵部少輔殿へ書状
 進候間、於中
 舟へ参合候様申
 付候、各よりも其通
 可

被申候、勿論御上着
 前之儀候条、御假屋
 掃除已下可被入
 念候、其外諸事之儀、
 由断有間敷候、様子
 鎌左京進殿迄申
 越候条、万端可被随
 下知候、為其如此候、
 恐々謹言、

下野守
 十月三日 久元(花押)

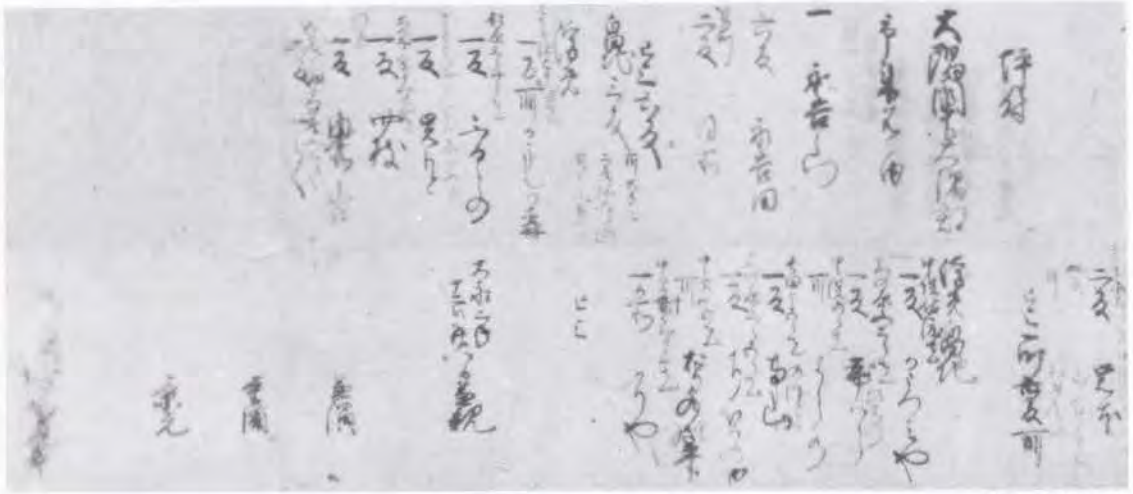
平田次左衛門尉殿
 中原藤左衛門尉殿
 吉井次郎兵衛尉殿
 御宿所



(31.0×43.8)

四三 島津忠広書状(曾木文書一二三)

- 一筆令啓入候、仍而
 - 大坂迄御供之由、
 - 御大儀ニ存候、拙者儀
 - 薩州様御参勤迄
 - 可相詰由被仰聞、此節
 - 御供不仕候、随而者大学
 - 御供仕罷下候、就夫
 - 乗舟之儀従家老衆
 - 可被仰越候間、似合之
 - 舟壹艘御賦頼入候、
 - 為与力日渡傳左衛門
 - 被仰付候、右親子
-
- 同船ニ御賦可給候、
 - 萬事其元能様ニ
 - 御入魂所仰候、何様
 - 罷下、旁可申承候、恐惶謹言、
 - 嶋津市正
 - 卯月九日 忠廣(花押)
-
- 比志嶋主膳様
 - 野村三右衛門様
 - 人々御中



(24.0×58.5)

四 坪付(曾木文書一三四)

坪付

大隅国下大隅郡

市来名之内

一 永吉之門

六反 永吉田

二反 同所

已上六反

畠地三反

二反 弥太郎迫
III もちひなく

浮免

はまた藤右衛門尉先

一反 川かうしか森

新原三郎四郎先

なまたよひやうへ先 山かふり

一反 岩もと

大つは宗さへもん先

同先 四枝

一反 同所山□

五反之内 上の原又二郎先

二反 一らく

中來小太郎先 中俣弥左衛門尉先
二反 岩本
一 反 山ノ口ノまへ
III むめやふ

已上一町七反 III

浮免畠地

中俣佐渡先

一反 かうつみや

上の原又二郎先 ひとの

一反 平はら

中俣六郎先

III よし水

長田与五郎先 のほと

一反 寺山

上の原二郎五郎先

一反 下ノほりの内

中間又六先

III たり水の平

中間十さへもん先

一 か所 かりや

已上

大永二年

十二月廿八日

兼親

兼演

重周

景元

尉殿

已上

去月廿九日、尊札、即致披

露候、然者、薩州様被成

御疹候由相聞得候哉、今度

御父子御三人様共ニ被遊、皆々

御快氣候、尤以御直書雖可

被仰候、先從拙者可申達

由、御意候間、如斯候、仍

黄門様被成御帰国、御満足

奉察候、尚期後音候、恐惶

敬白、

伊勢兵部少輔

六月廿日

玄番頭様

尊報人、御中

(17.7X53.4)

四 伊勢貞昌書状(曾木文書一二九)

已上

去月廿九日之尊札、即致披

露候、然者、薩州様被成

御疹候由相聞得候哉、今度

御父子御三人様共ニ被遊、皆々

御快氣候、尤以御直書雖可

被仰候、先從拙者可申達

由、御意候間、如斯候、仍

黄門様被成御帰国、御満足

奉察候、尚期後音候、恐惶

敬白、

伊勢兵部少輔

六月廿日 貞昌(花押)

玄番頭様

尊報人、御中



(15.3×54.0)

四 北郷久加外二名連署状(曾木文書一三〇)

急度申候、甑之嶋

番船少之由、其

聞得候間、其許

々以見合、相應ニ

可被遣候、為其

如斯候、恐々

謹言、

七月十一日

北郷佐渡守
久加(花押)

川上因幡守

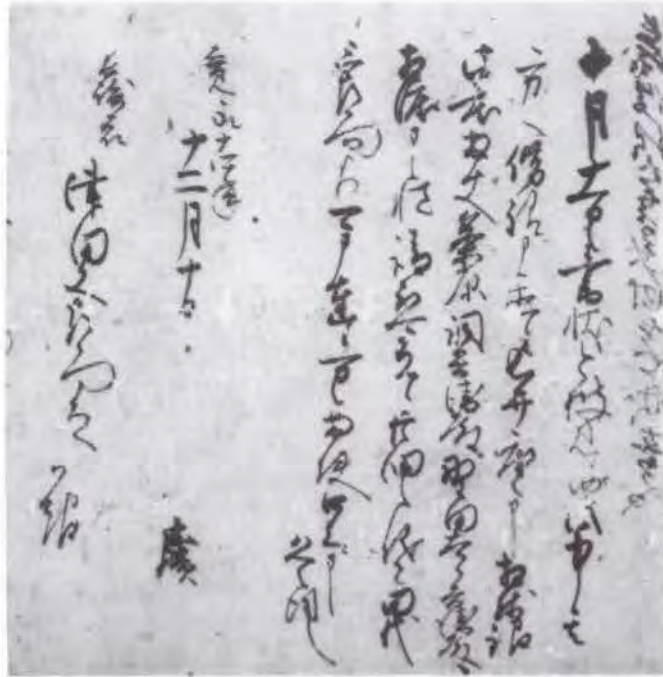
久国(花押)

嶋津弾正

久慶(花押)

相良土佐守殿

御宿所



(17.2×27.0)

四七 喜入忠統書状(曾木文書一三一)

(端裏書)

「長崎借銀返弁皆済之時進上状案文」

十月十一日之書状令披見候、仍此中其

方へ借銀申置候返弁度々申、相殘銀

此度而使案原調兵衛殿・野田太郎兵衛殿へ

相渡申候、慥請取可有候、巨細之儀者田代

三左衛門尉より可申達候、万々両使口上ニ申候、

恐々謹言、

寛永十四年

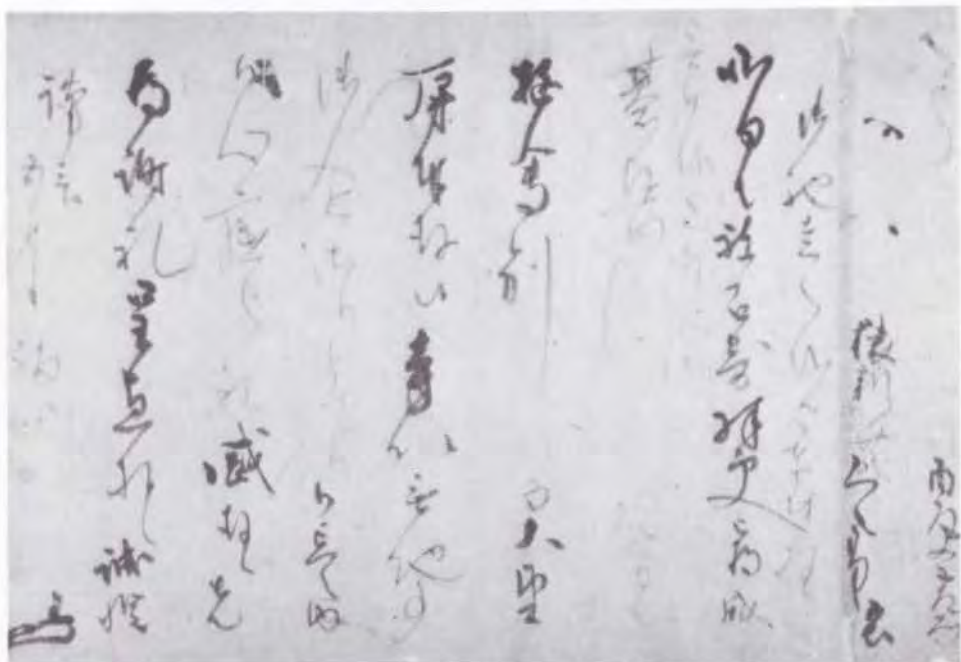
十二月十日

忠續

長崎表

津田又左衛門殿

御報



(31.9×46.7)

四 白尾国長書状（曾木文書一四六）

御馳走之義ハ忝奉存候、

無御限迄存候、以上、

昨日者 被召寄、殊更被為成

甚興行、終日之

遊會、別而 大望

辱奉存候、旁以無他事

御企、さりとてハ御志之内

御心底之程感存候、先

為謝礼呈愚札候、誠惶

謹言、

五月初八

（花押）

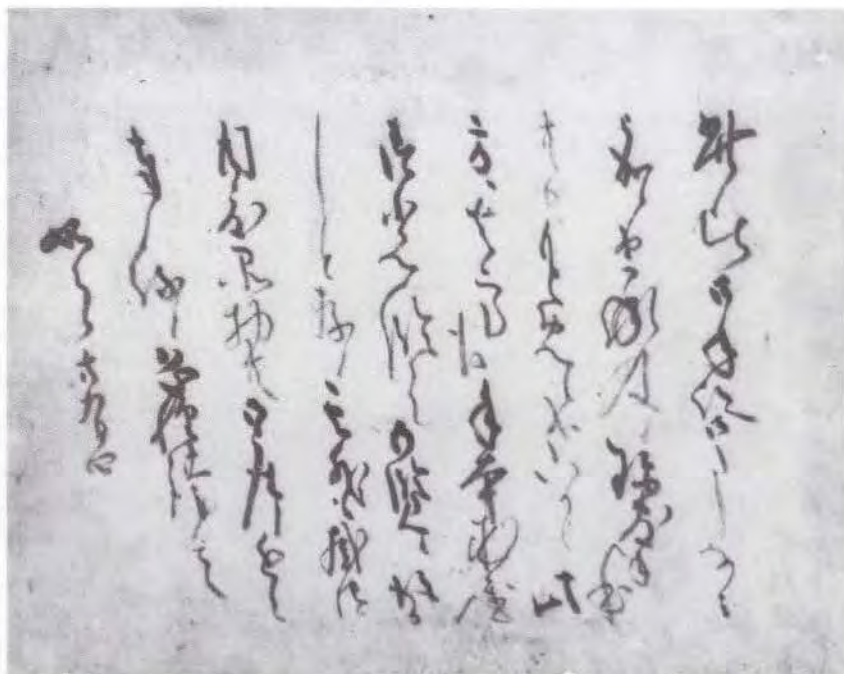
白尾金左衛門

国長

猿

新介様

人々御中



(31.8×40.0)

四九 喜入忠政書状(曾木文書一五七)

此比御手跡御たしなミ

被成候由、承及候、玆敷手本

共ハもとめ候哉、いかゞ、此

方其方^江手本求置候、

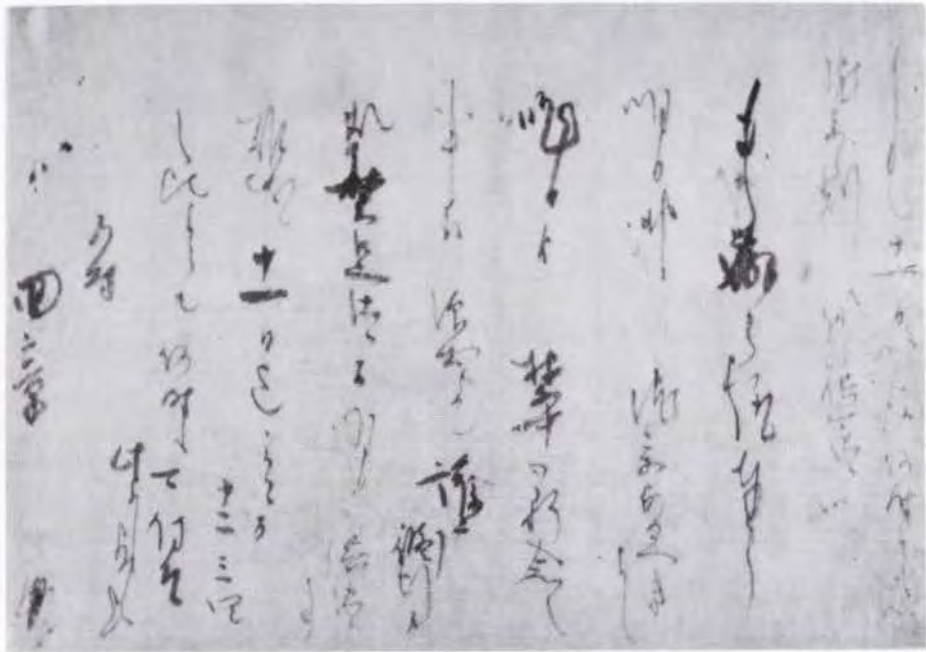
御光臨候て御覽候得か

しと存候、其外ニも掛御

目度品物共御座候、近々

奉待候、恐惶謹言、

如月廿有四



(30.5×43.5)

五〇 平田宗張書状(曾木文書一六二)

猶十一日以後何時にても御

院参之刻ハ、御供可仕候、

貴翰之趣奉申候、

明日御 院参あるへきよし

昨日ハ 禁中御祈念之

事ニ付 仰出にて候、護广修行候

故、禁足仕候間、明日御供仕候事

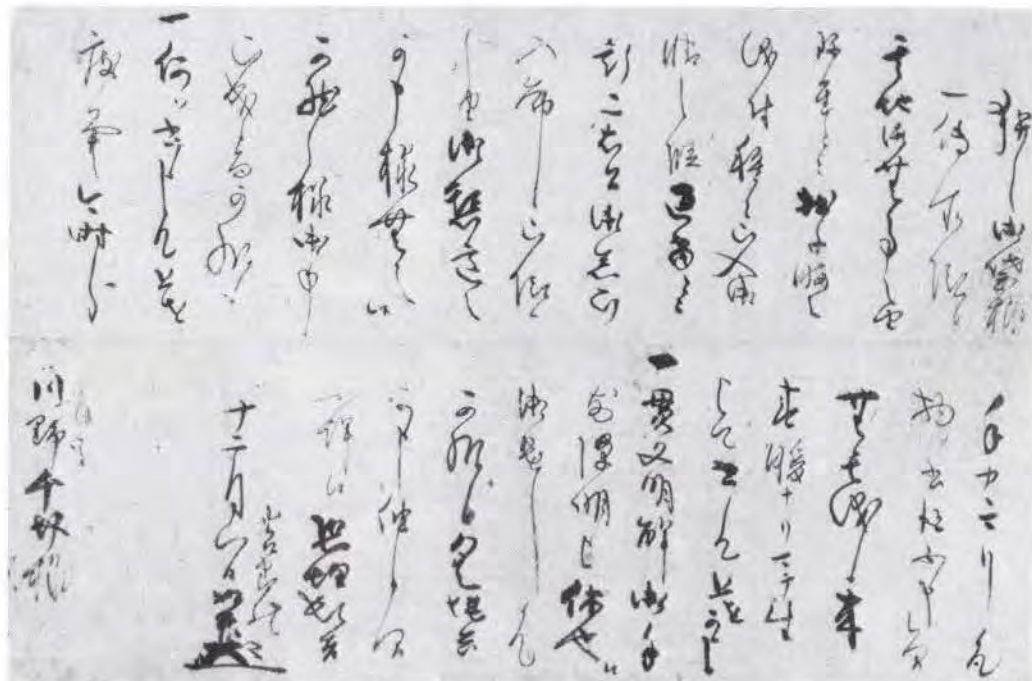
難成候、十一日迄にて候間、十二三四

之比より者、何時も可付下候、

此よし申候へく候、

かしく、

乃時
回章



(30.8×47.7)

五一 泊如竹書状(曾木文書一六七)

猶々御袋様

一傳所仰候、

其地御無事之由、

弥重々々、拙子暇之

儀付、種々被入御

情之段、過当々々、

新二右公御念被

入勸被仰候

之由、御懇意之

可申様無之候、

可然之様御申

被成候而可給候、

一何ソ書申候て上せ

度候へ共、今時分

手カ、マリ候て

物ヲ書得不申

無其儀候、来

春暖ナリマテ生

申候ハ、をして上せ

可申候、

一貫文明解御手

前隙明申候、休也江

御遣し候て

可給候、具堪兵

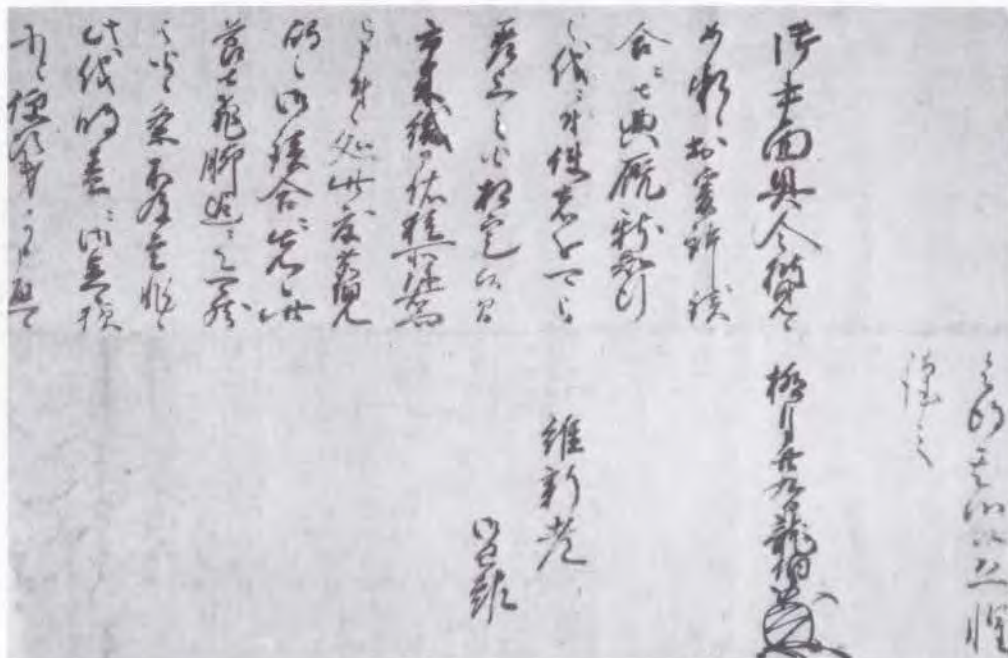
可申仲候間

不詳候、恐惶頓首、

十二月八日 如竹(花押)

養善院

拜呈
川野千介様



(30.2×46.0)

五二 島津義久書状（曾木文書一八〇）

御書面具令披見候、
令得其心候、恐惶

謹言、

極月廿九日龍伯（花押）

如承候、於爰許^二談

合^二者、典廐新知行

之儀^二付、使者を可被

差上之由相定候間、

市来織部佑・税所弥右衛門尉

被申付候処、此度鹿兒

嶋之御談合^二、先^二此

節者 飛脚迄^二て、可然

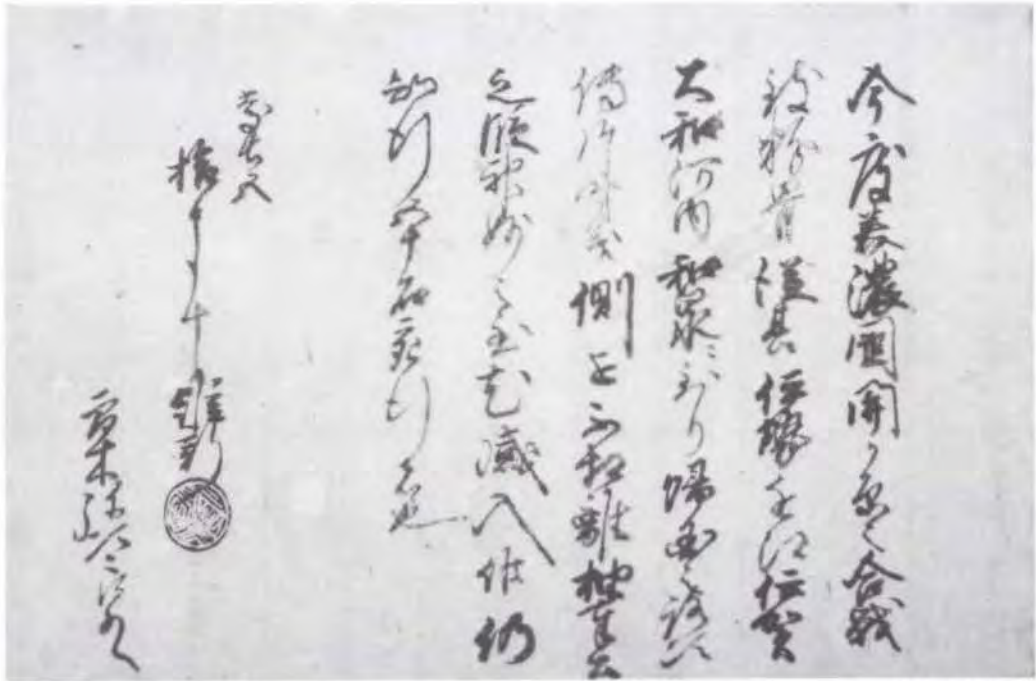
之由候条、不及是非候、

此儀明春^二 御置候様

にと、便次第可申通候、

維新老

御返報



(29.2×43.4)

五三 島津義弘感状（曾木文書—三四九）

今度美濃國関ヶ原之合戦

致粉骨、従其伊勢近江伊賀

大和河内和泉^ニ至り帰国之路次

傳、片時^茂側を不相離抽奉公

之段、神妙之至尤感入候、仍

知行五十石宛行者也、

慶長五

拾月十日維新^⑩

曾木弥次郎とのへ

やかて

くたり

可申

留すの事

にて候間

おとな衆いもし

可申候

まゝ

又々

かしく

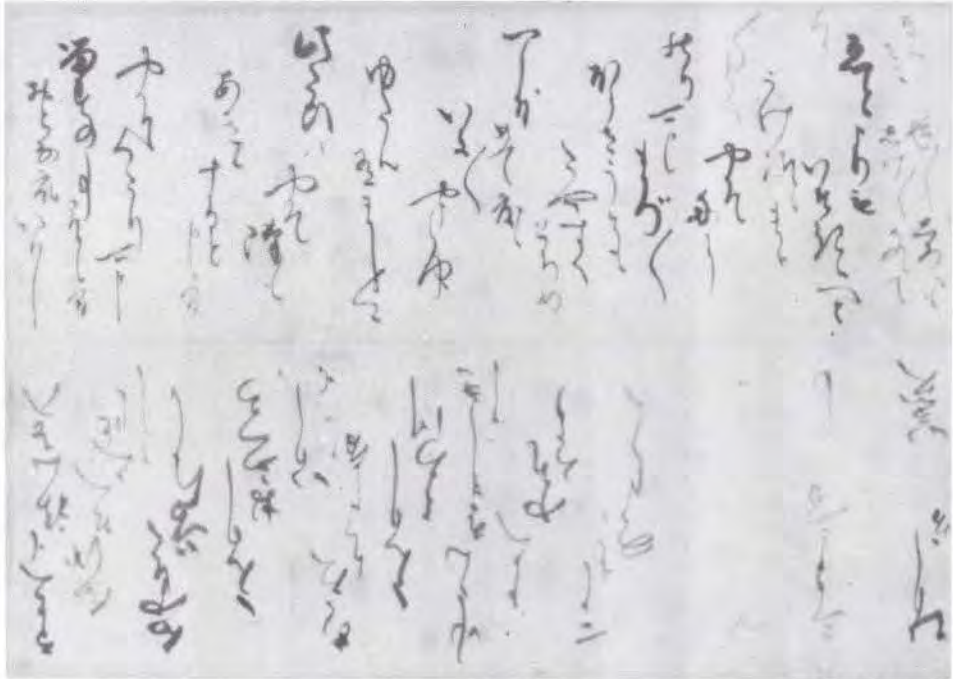
三月三日

より

むもし

まいる

い系久



(32.0×45.4)

五四 島津家久書状(近世―二一三)

なく 返／＼三ろへも

さミ しけ／＼御入候て

系とよりも

候へく候 いそき候へと

うけ給候まゝ

かしく やかて

舟に

のり可申候

まづ／＼

ほうさうとも

たやすく

とちめ

一しほ

めて度候

いよ／＼

やうしゆ

ゆたん

有ましく候

此たひハ

やかて

隙も

あき候

すると

申候間

などへもねんを入

心をそへ

候へと申

事候

心やすく

思ひ候へく候

たんもし

おふくろ

いもしへ

も

こゝろへ

候て申度候

たんもし

よろつ

ゆたん有ましき

よし

申候へ

やかて

くたり

さためて

其方へ

まいり候

らん

おもひ候

事候

やかて

参候て

申候へく候

又まかしく

卯月十八日

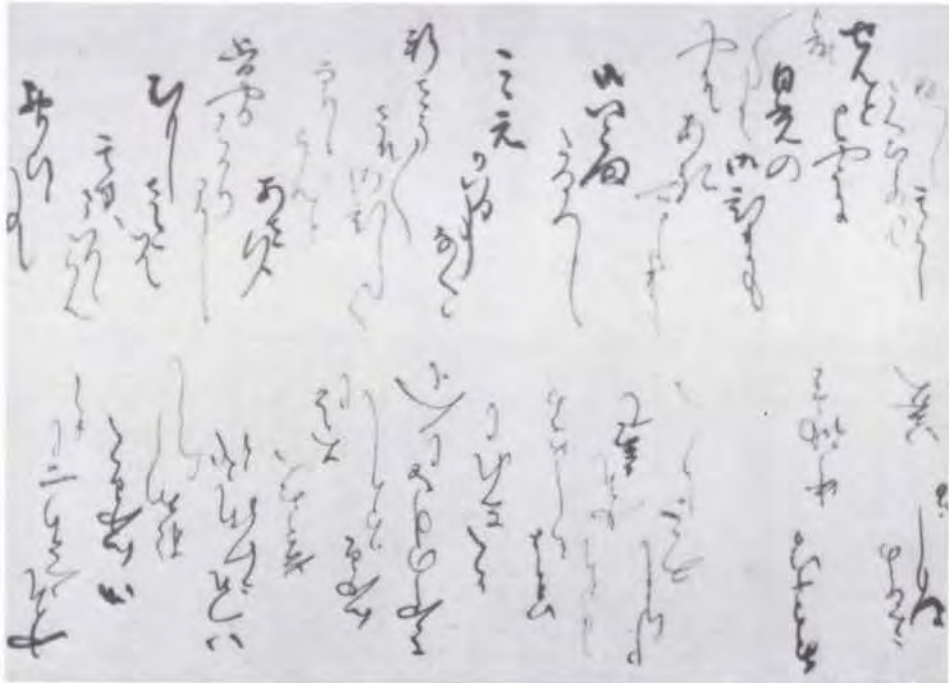
中納言

たん正との

むもし

まいる

い系久



(32.0X45.9)

五 島津家久書状(近世―二一八)

返／＼其よし

たん正とのへも

せんと

申度候 申候やうに

日光の

かしく 御ひまも

やかて

あき

可申候まゝ

御いとま

たるへく候

こゝ元

かハる

事なく候

新さう

さそ／＼

さひしく

なり候

らんと

思ひやる

はかり

にて候

むもし

やかて

くたり可申候

まゝ

御心やすく

おほし

候へく候

いつそ

うけ給候儀

兵部少へ

大かた
申候

心やす

かるへく候

さやうの事を

申候人も

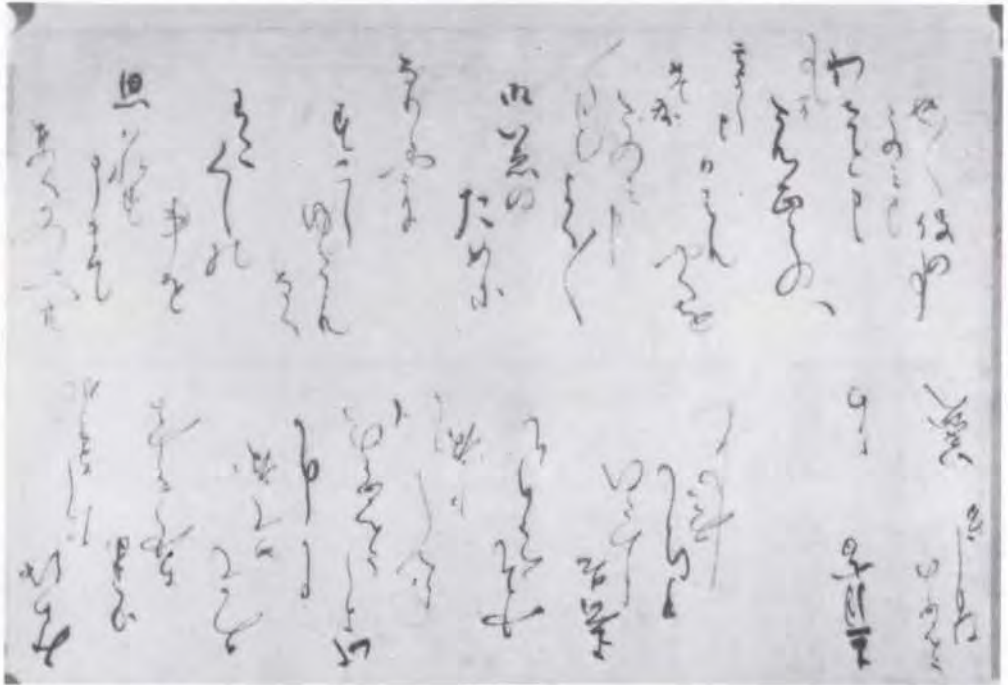
とくしれ申候

いまに

はしめさる

事にて候

事にて候



(35.6×53.4)

五六 島津家久書状(近世一二一七)

返／＼役の事

たのミ申候

わさと申候

事候 たん正とのへ

其よし 申候 かはん

めて度 やくを

／＼ たのミ申候

かしく よく／＼

御い系の

ために

なり候やうに

すこしも

ゆたん

なく

わたくしの

事を

思ハれす

申まで

なく御入候へ共

みちを

たしなまれ

ゆく末

ちやうきふに

御入候て

めて度

申候事候

此よし

たん正とのへ

も

よく／＼

申度候

やかて

くたり候て

春は

よろこひ

申候へく候

又ミ

かしく

十二月七日

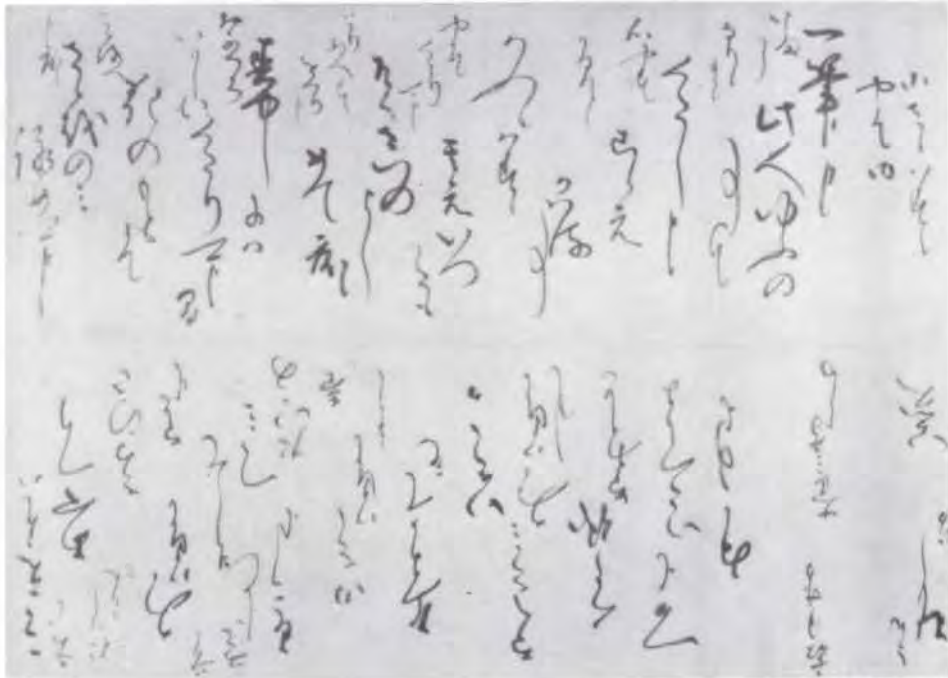
より

たん正との

むもし

いゑ久

まいる



(34.0×48.2)

五七 島津家久書状(近世—二一九)

御さ候ハす候
 やかて御
 一筆申候
 いとまに 此人ゆふの
 なり候 事候て
 まゝ くだし申候
 心やす かるへく候 こゝ元
 かハる
 事
 御入候ハす候
 やかて 其元いつ
 くだり
 可申候 かたも
 とり
 そくさいの よし
 あへす
 をくり 申候 めて度候
 春中にハ
 おふくろ いもしへも くだり可申候間
 花のもとにて
 こゝろへ さゝをのミ
 申度候 詠め可申候

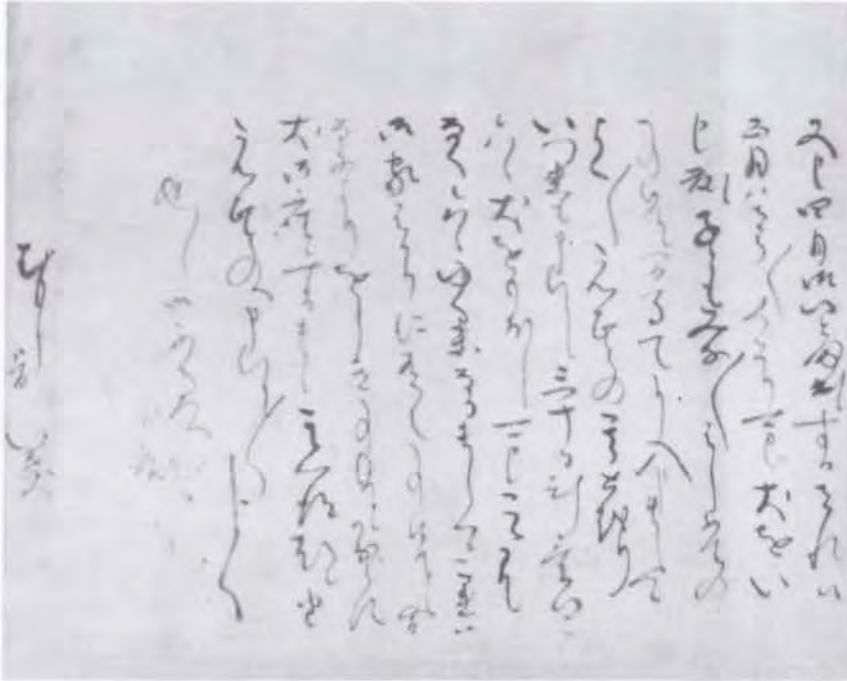
こゝ元にてハ
 しろへち おハし候 あやつり
 らんと さるひき
 なとも
 御入候ハす候
 思ひ候 まして
 又々 かくく つゝミ
 すこしも たいこの
 音

御さ候
 ハす候
 まゝ
 なにゝても
 いさゝか
 なくさミ
 御入候ハす候
 事候

くろう儀
 なにかと
 一日もいたつらに
 ゐ候事も

霜月廿日 大すミ守
 より

たん
 むもし
 まいる
 いゑ久

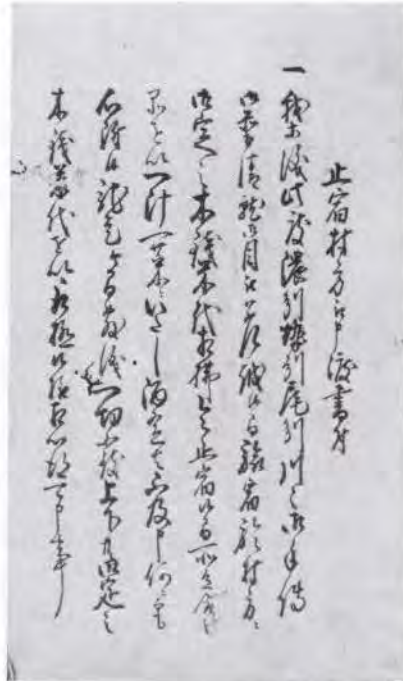


(32.0×43.5)

五六 島津家久書状（近世—二二〇）

又申候、四月御いとま出候する、されハ
 五月ハさう／＼くたり可申候、犬をい
 申度候、子ともみな／＼はしめての
 事にて候間、馬てに入申ましく候、
 よく／＼たん正との其とをり
 いつれも申候へく候、三十日計けいこ
 候ハ、犬をもほし可申候、こゝにて
 なく候ハ、ゆく末なるましく候、これハ
 御家はかりに有之事にて候間
 なによりをしき事にて候、かならず
 犬御座候するま、其心得尤候由、
 たん正とのへ申候へく候、／＼、かしく、
 返／＼御ふくるへ申度候、／＼、

むもし
 まいる
 い系久



(25.0×17.0)

五九 止宿村方江申渡書（近世一二二）

止宿村方江申渡書付

一 我等儀此度濃州勢州尾州川々御手伝

御普請就御目被差越候間、旅宿於村方二

御定之木錢米代相払令止宿候間、所有合之

品を以一汁一菜三いたし、酒肴者不及申、何二而も

心附候馳走ケ間敷儀一切不致、上下共御定之

木錢米代を以取極候様相心得可申事、



(27.0×29.0)

六〇 除証文(近世一七二)

除証文

禅宗 平田喜藤次

右者 私弟中村喜藤次^二而 候処^二、御親類平田

五次右衛門殿家跡養子昨廿三日御用人川上

瀬兵衛殿御取次^二而、願之通被仰付候^二付、手札相隨

相除申候間、後年宗門手札御改之節其御方

帳面^二可被成御書載候、此方帳面相除可申候、

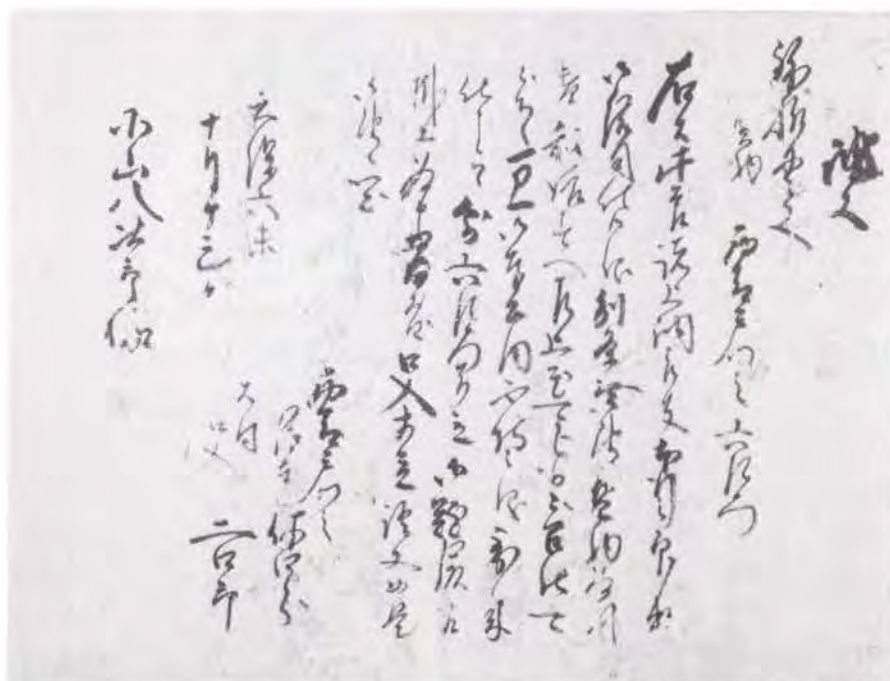
尤御法度之宗旨^二而 無御座候、為後日如此

御座候、以上、

寛延三年^午 九月廿四日 中村与太夫^印

平田五次右衛門殿家跡御親類

伊勢弥八郎殿



(24.0X36.0)

六 証文(近世一二三)

証文

錢拾貫文

質物 西青戸門之六左衛門

右者 此節諸上納差支、本行之印数

御借用仕候儀別条無御座候、質物為引

替私娘すへ差上置可申候間、被召仕可

被下候、万一御奉公内不埒之儀到来

仕申候ハ、則六左衛門差立、御難渋□

掛上為申間敷、口入相立証文如是

御座候、以上、

西青戸門之
借主 休四郎

天保六末
十月十三日

右同
口入 二四郎

小山八次郎様

元利堅固首尾可仕候、尤為質物
 上之水堀取作壺斗牧差立置
 申候、若至其時かり主より返済難成
 儀も御座候ハ、口入前より引請無相違
 首尾可仕候、為後日借状如斯御座候、以上、
 天保十五年辰五月廿五日 かり主町之
 三郎 印
 小山八次郎様 口入 あね とみ 印
 元利堅固首尾可仕候、尤為質物
 上之水堀取作壺斗牧差立置
 申候、若至其時かり主より返済難成
 儀も御座候ハ、口入前より引請無相違
 首尾可仕候、為後日借状如斯御座候、以上、
 天保十五年辰五月廿五日 かり主町之
 三郎 印
 小山八次郎様 口入 あね とみ 印

(26.0×24.0)

六二 書物（近世―一二五）

書物

錢式貫文 但利錢壹貫文ニ付壹ヶ月拾六文ツ、
右者 当用ニ差迫り、御借用申儀

別条無御座候、返済之儀者 来ル九月限

元利堅固首尾可仕候、尤為質物

上之水堀取作壺斗牧差立置

申候、若至其時かり主より返済難成

儀も御座候ハ、口入前より引請無相違

首尾可仕候、為後日借状如斯御座候、以上、

天保十五年辰五月廿五日 かり主町之

三郎 印

小山八次郎様

口入 あね

とみ 印



(26.0×37.0)

三 知行名寄帳(本田文書一二六)

右同四六掛次郎右衛門仕明地

田拾三間半 式畦八部 弥八

高成六升三合

合式表壹斗九升七夕 七升四合

高ニシテ 九斗式升七合八才

西別府村

抱地

田^誦十一間 拾六步 式升

田^誦十間 拾步 式升

田^誦五間 五步 式升

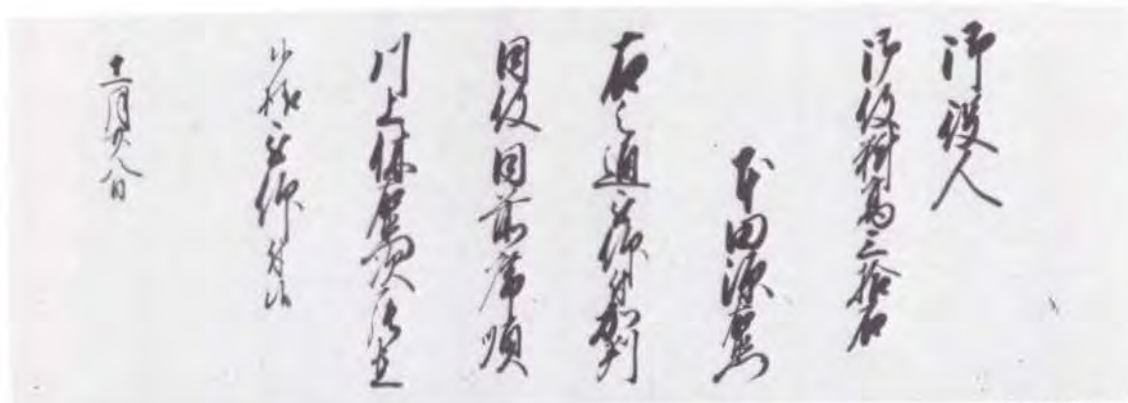
金左衛門

同人

金左衛門

合式五升

高ニシテ 五升式合八才



(16.4×50.2)

六 御役人辞令(本田文書一三三)

御役人

御役料高三拾石

本田源右衛門

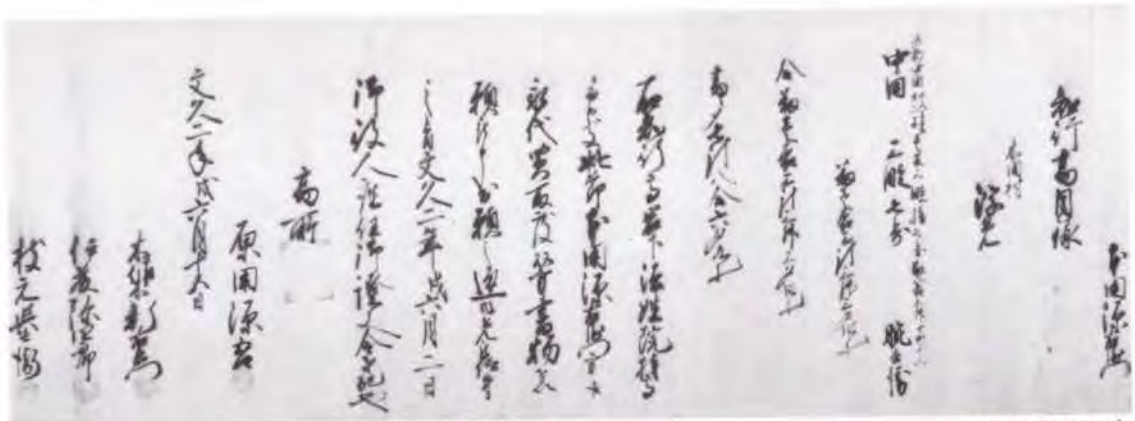
右之通被仰付、加判

同役同前、席順

川上休右衛門次罷在

候様被仰付候、

十一月廿八日



(26.4×84.5)

六五 知行高目録(本田文書一七六)

本田源右衛門

知行高目録

木田村

浮免

弥勒中田十八間半 表反三畦拾七步 枳八表五升廿町十二

中田 三畦七步

腕兵衛

合枳表三斗三升三夕四才

高ニシテ 七斗八合六夕九才

右知行高岩下法姓院持高

ニ而 候処、此節本田源右衛門方

永代買取度、双方書物を以

願被申出、願之通御免被仰付

之旨、文久二年 戌 六月二日

御役人座任御証文、令支配也、

高所[㊤]

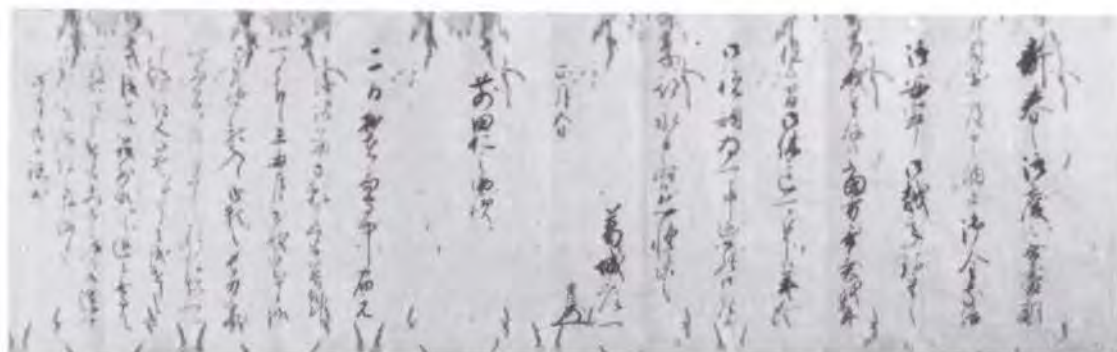
原田源吾[㊤]

文久二年 戌 六月十五日

木佐木新右衛門[㊤]

伊藤弥四郎[㊤]

枝元与兵衛[㊤]



(16.5×59.5)

六 葛城彦一書状（葛城文書一六）

新春之御慶無尽期

目出度申納候、御全家俗

御安寧御越年珍重之

御義奉存候、当方無異越年

仕候間御休意可被下候、年賀

御祝詞為可申述如此御座候、

尚期永日之時候、恐惶謹言、

正月五日 葛城彦一
重任（花押）

前田仁之助様

二白 拙者留守中宿元

之儀何篇御頼申上候間、宜御取計

可被下候、且毎月書状登せ候様

御申間頼入候、御頼之長刀今日より

四両間ニ片付可申候、猶後便可

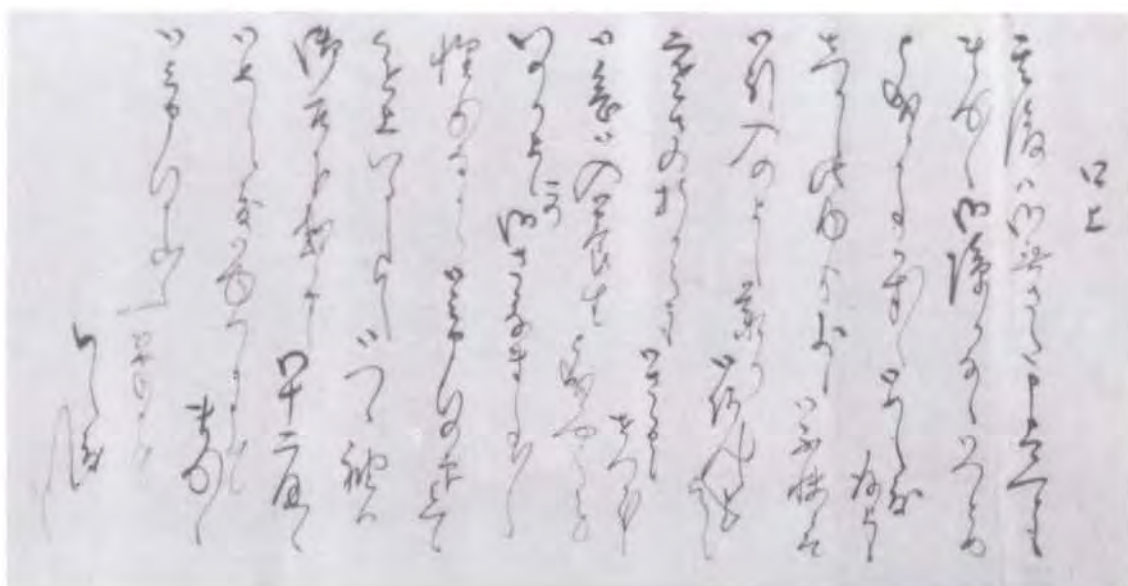
申上候、將又いそよりも手紙遣申候ハ、

其趣ヲ以筑前殿にも追々無事之

一左右可申遣候間、夫等之趣も御達可

被下候、書餘期後便候、以上、

正月九日認書

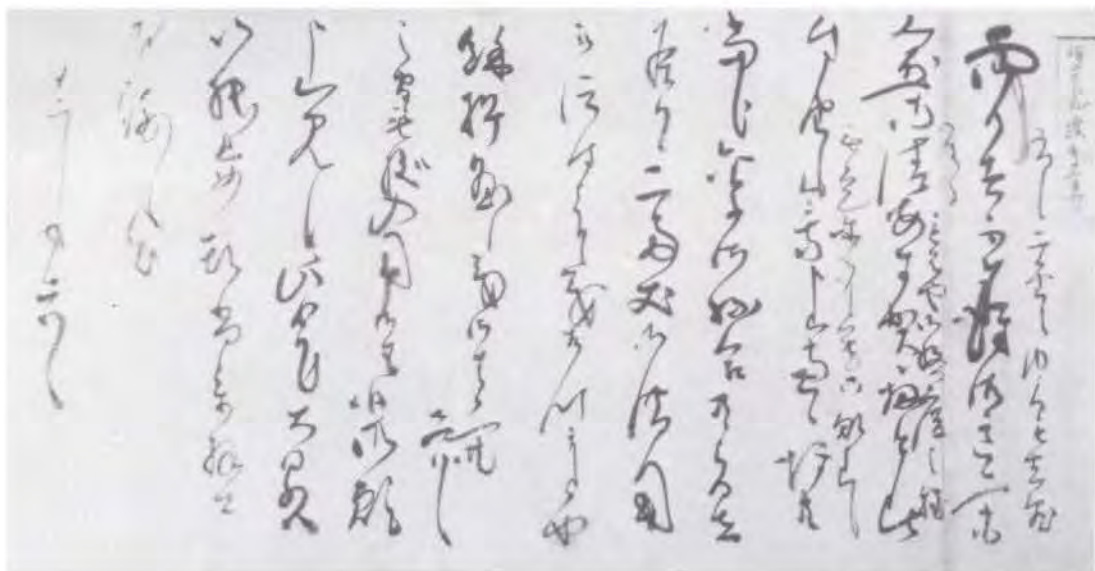


(16.5×50.5)

六七 税所敦子書状(葛城文書一二一)

口上

其後ハ御無きた申上候へとも、
 まつ／＼御障りなく御つとめ
 被成候事、かす／＼御めて度存上候、
 しかし此内より少し御不快にて
 御引入のよし承り、御あんし申上まいらせ候、
 寒さの折からニも御さ候まゝ、せつかく／＼
 御念御入養生被成候やうニと
 いのり上候、この御さかなま事に／＼
 軽少なから、御ミまいの印迄ニ
 進上いたしまいらせ候、御つゝ袖ハ
 御召下戴候まゝ、八十二さまへ
 御めて度御ゆつり申上候、まつ／＼
 御ミまいかた／＼一筆申上候、
 めて度かしく、



(18.0×40.0)

六 大久保利通書簡（大久保文書一六）

尚々二金之内ニても宜敷

御座候、もはや御格護之程

無覚束奉存候へ共、御願申上候、

兩日者 不奉得御意候へ共、

愈御清安奉賀候、擬近比

自由之義申上兼候得共、

当分金子御持合共被為在

候ハ、二両丈御借用

被仰付被下候義相叶ましく也、

餘押懸之義御座候へ共、しはし

之間無抛入用御座候間、御願

申上見候、此方乍大略

以紙上如斯、尚参拜可

奉謝候、以上、

十二月六日

奉復如御座候、
 遠方迄御使難有
 奉存候、急ニ帰藩
 被仰付、明朝発足
 鳥渡御面会申上度ト
 存候へ共、別而いそかしく
 不本意ながら其儀
 不相叶候、少々御不快
 之由、折角御保養
 專要奉折候、木場
 吉井等も参居
 御詠感吟仕候、折角
 困甚之御修業被成度、
 帰京之上御指南
 可申上候、此旨早々
 奉復如御座候、
 頓首、
 十一月廿八日

(15.5X63.0)

六九 大久保利通書簡(大久保文書一〇二)

朶雲拜見態々

遠方迄御使難有

奉存候、急ニ帰藩

被仰付、明朝発足

鳥渡御面会申上度ト

存候へ共、別而いそかしく

不本意ながら其儀

不相叶候、少々御不快

之由、折角御保養

專要奉折候、木場

吉井等も参居

御詠感吟仕候、折角

困甚之御修業被成度、

帰京之上御指南

可申上候、此旨早々

奉復如御座候、

頓首、

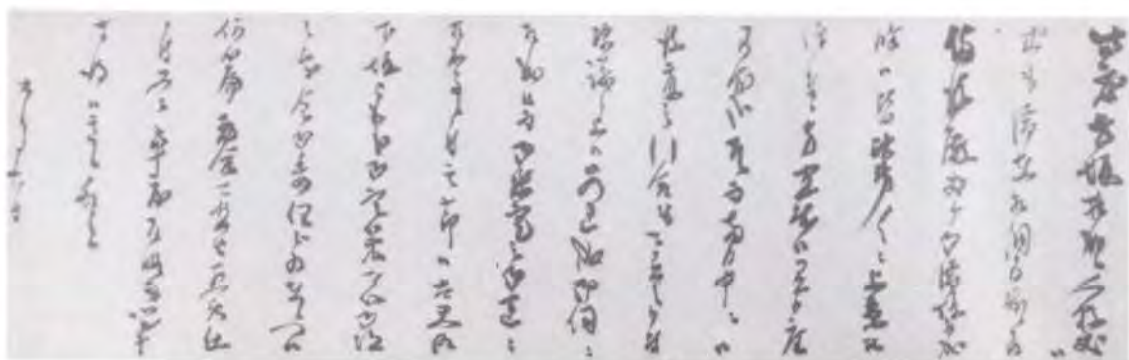
十一月廿八日

芳翰添拜誦仕候、
 陳ハミニヘル銃かれ結
 等之義、早々御遣被下慥ニ
 御受取申上候、将又柴山
 東下之義何様之御用欵ハ
 不相分候得共、フロイセン
 ミニストルニハ近日着坂之
 模様申来候、先月廿九日
 横浜出帆之噂ニ御座候、
 当地ニ而ハ早宿等之手当
 ニハ相成居候由御座候、高輪
 借地之義ハ右様之振
 合御座候ハ、江戸ニ而ハ相調
 申間敷欵、いつれ当地ニ而
 御談判被成度事と相
 考居申候、此段ハ為御
 心得申上置候、頓首、
 西郷吉之助
 八月朔日
 大久保一蔵様

(16.0X94.0)

七〇 西郷隆盛書簡(大久保文書一四一)

芳翰添拜誦仕候、
 陳ハミニヘル銃かれ結
 等之義、早々御遣被下慥ニ
 御受取申上候、将又柴山
 東下之義何様之御用欵ハ
 不相分候得共、フロイセン
 ミニストルニハ近日着坂之
 模様申来候、先月廿九日
 横浜出帆之噂ニ御座候、
 当地ニ而ハ早宿等之手当
 ニハ相成居候由御座候、高輪
 借地之義ハ右様之振
 合御座候ハ、江戸ニ而ハ相調
 申間敷欵、いつれ当地ニ而
 御談判被成度事と相
 考居申候、此段ハ為御
 心得申上置候、頓首、
 西郷吉之助
 八月朔日
 大久保一蔵様

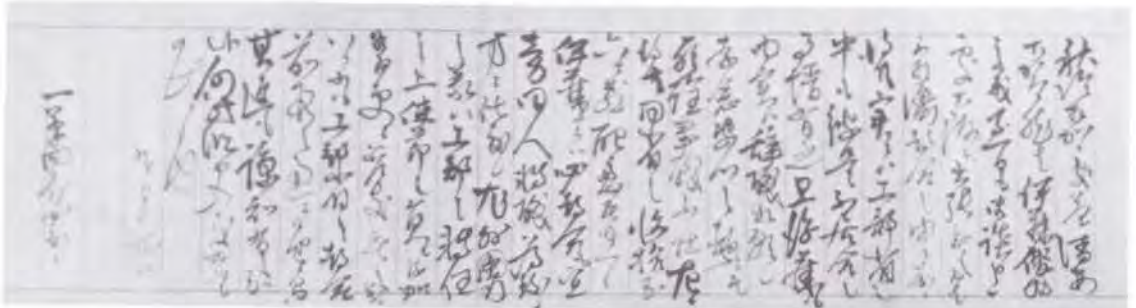


(16.0×68.0)

七二 西郷隆盛書簡（大久保文書一四四）

此度着坂相成候人数丈ハ
 迎も滞在相調間敷候間、
 備後殿丈ケ御滞坂相成、
 餘ハ皆次第ノ上京被
 仰付候方宜敷ハ有御座
 間敷哉、左候而両日中ニハ
 後藤之引合も可有之候付、
 決議之上ハいつれ成御伺ニ
 相成候而御決定之御運ニ
 相成事候付、其節ハ太夫御
 下坂被成下、御定策を以御跡
 之处全御委任被為在候ハハ
 何篇都合可宜と愚考仕
 候付、又々卒度乍略義以書中
 奉得御意候、頓首、

九月七日



(17.0×83.5)

七三 三条実美書簡（大久保文書―一七一）

秋冷相加候処、益清安
 大賀候、然者 伊藤俊助
 之義、過日も御談申候
 処、大阪ニ出張無之而者
 不相済都合之由ニ承候
 得共、実ニハ工部省之
 中も彼是不居合之
 事情有之、且後藤も
 内実ハ辞職相願候
 存念決心之趣ニテ、
 所詮奉職不仕、左候
 得者 同省之收拾甚
 六ヶ敷配慮罷在候、
 伊藤ナラハ必都合も宜、
 旁同人転職為致候
 方ニ仕度候、尤外国行
 之義ハ、工部之転任
 之上、使節之員ニ被加
 候而 更ニ差支無之義、
 いかにも工部省之都合
 前段之通ニ御座候間、
 其辺も諒知有之度
 候、仍此段申入度、草々
 如此候也。

九月十九日

一筆回答承度候、



(16.0×76.5)

七三 三条実美書簡（大久保文書―一八三）

三藩へ御沙汰案

今般召之義者時

国事御諮詢之思召

候間、三職同様之心

得を以て機務大政参

預可致候事、

但参朝規則等ハ追而

可被仰出事、

鹿香間祗候之事、

鹿兒島知事着

後病氣之由、何日

比二ハ出仕も相整可申

哉、本文申陳候通之義二付、

着之上ハ速二被仰付

度候間、所勞之都合

内々御聞繕有之候様

致度候、此段も申入候

也、

海上平穩御歸
 朝之趣、於香港承知
 恐悅此事ニ存候、吾輩
 一行ニモ至而無事漸々
 今八月廿七日同港到着
 乍憚御放慮被下度候、
 然ル処シヤンハイノ方廻リ
 歸國之事ニ願候間、少々日限
 延引恐入存候、委曲安藤より
 可申入候、何レ来九月十二三日
 之中ニハ歸朝と存候條、速ニ
 拜上万々申承度事と
 屈指企望罷在候、不取敢
 一筆如此候也、

九月廿七日 具視
 大久保殿

尚々御歸國早々ヨリ
 定而種々御配慮と千萬
 令遙察候、万可期拜上、
 早々以上、

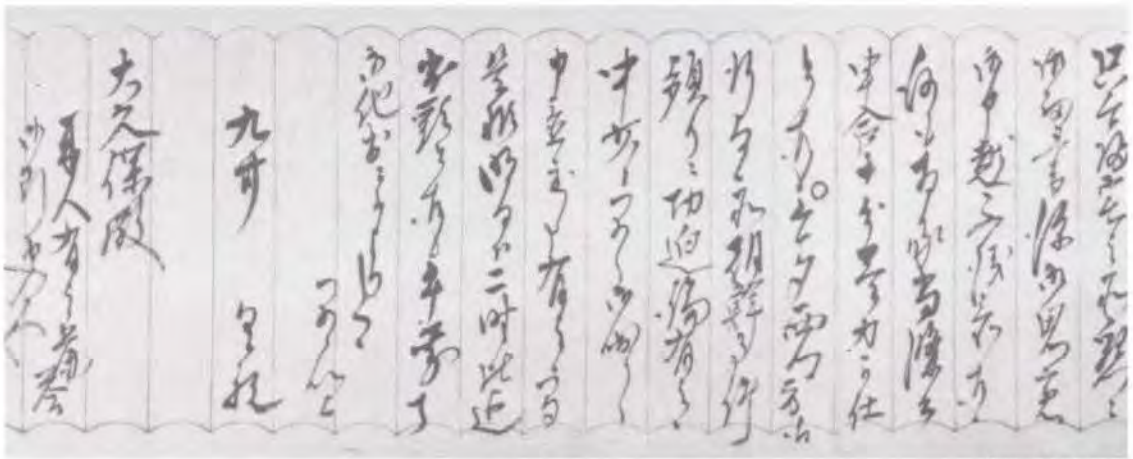
(16.0×42.0)

七四 岩倉具視書簡(大久保文書一三四八)

海上平穩御歸
 朝之趣、於香港承知
 恐悅此事ニ存候、吾輩
 一行ニモ至而無事漸々
 今八月廿七日同港到着、
 乍憚御放慮被下度候、
 然ル処シヤンハイノ方廻リ
 歸國之事ニ願候間、少々日限
 延引恐入存候、委曲安藤より
 可申入候、何レ来九月十二三日
 之中ニハ歸朝と存候條、速ニ
 拜上万々申承度事と
 屈指企望罷在候、不取敢
 一筆如此候也、

九月廿七日 具視
 大久保殿

尚々御歸國早々ヨリ
 定而種々御配慮と千萬
 令遙察候、万可期拜上、
 早々以上、



(16.0X48.0)

七五 岩倉具視書簡(大久保文書―三五二)

只今帰宅之所懇々

御細書深御思慮

御申越不浅忝存候、

何も拝承、尚條公

申合十分尽力可仕

と存候、○今夕西郷方江

行向候所、朝鮮事件

頻りニ切迫論有之候

中、少々早く御咄し

申置度事有之候間、

是非明日ハ二時比迄

出頭と存候、午前^者

御他出^{ニ而}よろしく候、

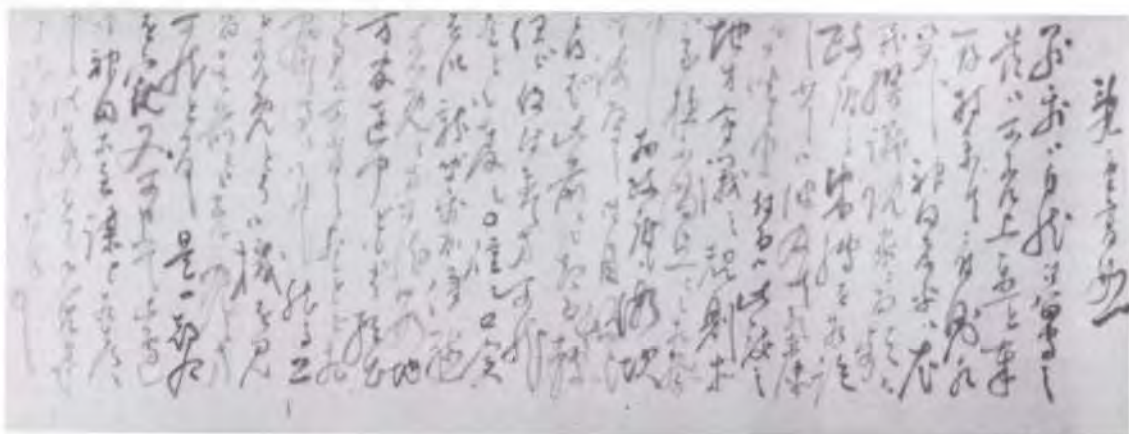
早々以上、
具視

九卅
大久保殿

来人有之鹿答

御断申入候也、

を窺又可申上候、此辺
も神田等主謀と相考へ
申候、此段をも御含まで
申上置候、草々頓首、



(19.0×62.0)

七六 木戸孝允書簡（大久保文書―四七二）

乱筆高恕

別紙ハ自然御留守之

節ハ可差上置と奉

存持参仕候ニ付、則相

呈申候、神田孝平ハ尤

民撰議院家ニ而頻ニ

政府之束縛を相論

し、少しハ波及仕候気味

も御座候由、付而ハ此度之

地方会議之規則等

ハ至極不満足ニ被相察

申候、於政府も漸次

御誘導之御目的ニも

候得ば、此前ニも却而転

任被仰付置候方可然

欵とも奉存候○種々口実

を以新聞紙屋傍聴

被差免候方可然段、地

方官連中どもより願出

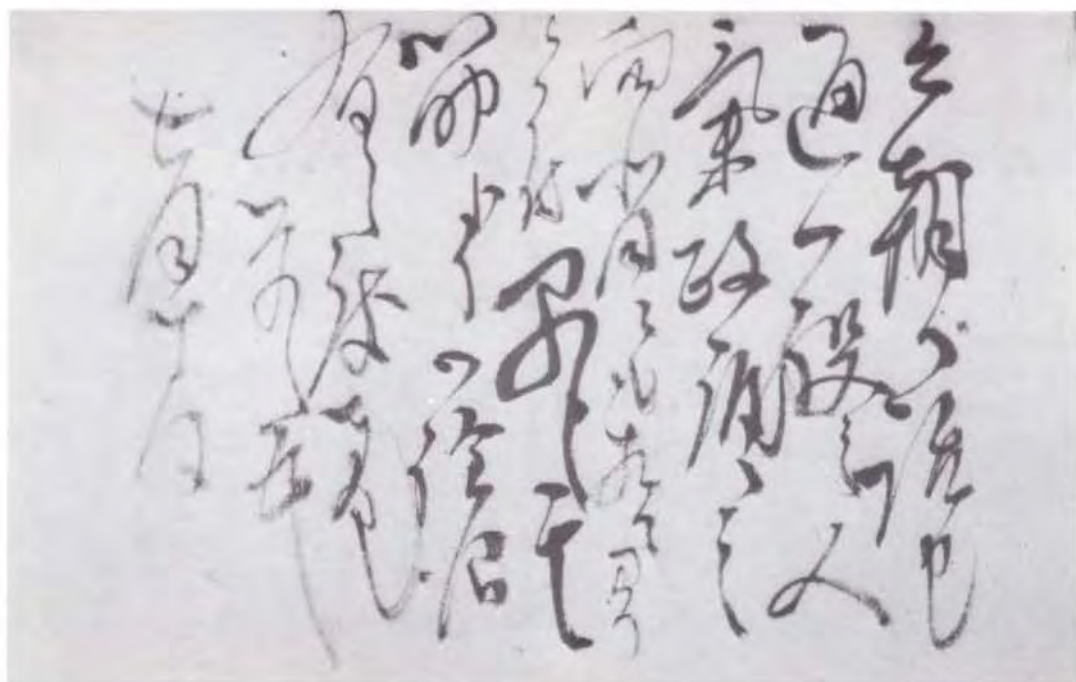
候事も可有之欵と被相

察候事も御座候、然る上

被差免候よりハ機を見

而、其前ニ被差免候方

可然と奉存候、是ハ都合



(16.0×36.5)

七 木戸孝允書簡（大久保文書―四七三）

今朝御話申候

通、一般之人

氣政府へ之

向背ニも 相かゝわり

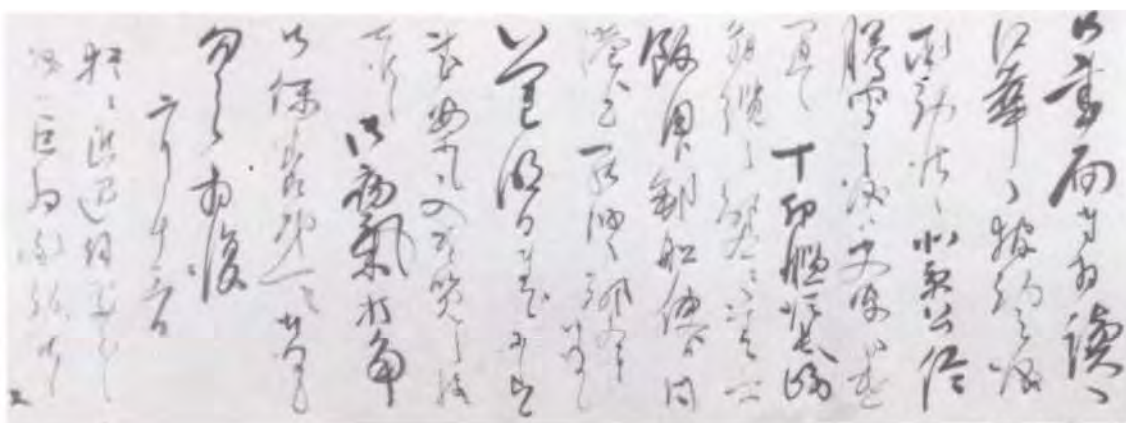
候ニ付、早々其

筋より 御詮議

有之度奉存候、

草々頓首、

七月十日



(18.0×68.0)

七 伊藤博文書簡（大久保文書―四九四）

御書面奉拜読候、
 江華へ報知之儀
 承知仕候、北京公信
 謄写之儀ハ史官へ申遣
 置候、丁卯艦從長崎
 解纜之都合ニ御座候へハ、
 飯田ハ郵船便より同
 港迄罷越候都合と奉存候、
 いつれ明日までには
 書案も入貴覽候様
 可仕候、御病氣折角
 御保養第一ニ奉存候、
 勿々拜復、
 二月十三日
 猶々進退何処分之
 儀ハ巨細承知仕候、
 以上、